平成 21 年度調査研究

被災地における高齢者活動（老人クラブ等）の復興経験と現状の検証

報告書

平成 22 年 3 月

(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
研究調査本部
共生社会づくり政策研究群

研究体制

上級研究員	松原一郎	関西大学社会学部教授
研究者（報告書執筆）	村上寿来	共生社会づくり政策研究群主任研究員

目次

第１章 ..... 調査研究の目的と概要 4

第１節　調査研究の目的 4
第２節　調査の概要 4
１．アンケート調査 4
２．インタビュー調査 5

第２章 ..... 被災地老人クラブの現状 6

第１節　阪神・淡路大震災と老人クラブ 6
１．震災の状況 6
２．復興施策と老人クラブ 7
第２節　老人クラブの復興過程 8
第３節　震災復興過程における老人クラブの状況 10
第４節「5～10 年」期に活発になった要因について 13
１．被災状況の違い 13
２．会長の性別 14
３．活動内容 15
４．見守り活動の状況 16
５．連携機関 17
６．震災における影響の理由 18
７．復興過程で活発になった活動内容 19
８．「活発」の要因について 20
９．「低調」の要因について 20
第５節　震災後設立されたクラブの特徴 22
１．活動拠点について 23
２．主な支出項目 24
３．活動内容 25
４．勧誘方法 26
５．必要な支援 27
６．活性化の取り組み 28
７．復興過程で活発になった活動 29

第 3 章　被災地老人クラブの変化 30

第 1 節　会長性別 30
第 2 節　活動内容 31
第 3 節　加入率低下の理由 32
第 4 節　クラブ運営上の問題 33
第 5 節　必要な支援 34
第 6 節　老人クラブという名前 35

第 4 章　被災地における活性化の要因について 36

第 1 節　活動拠点 37
第 2 節　活動内容 38
第 3 節　見守り活動の状況 39
第 4 節　勧誘方法 39
第 5 節　加入率低下の理由 41
第 6 節　クラブ運営上の問題 42
第 7 節　活性化の取り組み 43
第 8 節　被災状況 44
第 9 節　震災後の変化の理由 44
第 10 節　復興過程で活発になった活動 45
第 11 節　クラブ財政との関連 47

第 5 章 ..... まとめと提言 49

第 1 節　これからの老人クラブ活性化の方向性について 49
第 2 節　提言 50
地域に根付いた年代層別地域型組織としての老人クラブの復興過程での役割の再評価 50
内外に開かれた「見える」クラブの実現 50
参画と協働のパートナーとしての老人クラブの再認識 50
ハイブリッドな組織としての老人クラブとその多様化に対する支援 51

資料　52

第1章 調査研究の目的と概要

第１節　調査研究の目的

被災地の高齢者活動は、震災により消滅した地域と、むしろ震災後より活発になった地域とがある。そのため、震災でも崩壊しなかった地域の高齢者活動（老人クラブ等）の復興経験の展開と現在の状況を調査し、地域の活性化方策の検討を行なう。

第２節　調査の概要

１．アンケート調査

（１）　調査対象：被災地の全単位老人クラブ（神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、明石市、三木市、洲本市、南あわじ市、淡路市）

（２）　調査方法：自記式質問紙調査

（３）　配布方法：調査票の配布については、対象となる市区老人クラブ連合会の状況によって、郵送配布・直接配布の二種類の方法をとった

（４）　回収方法：調査票の回収については、市区老人クラブ連合会の状況により、郵送回収と連合会による回収とりまとめの 2 種類の方法をとった。

（５）　回収数：1400　有効回収数：1398

（６）　有効回収率：57.6%

表 1-1　調査対象の概要と調査方法

		クラブ数	配布方法	回収方法	回収数
神戸市	東灘区	44	老連配布	郵送回収	25
	灘区	48	老連配布	老連回収	37
	兵庫区	62	老連配布	郵送回収	21
	長田区	52	老連配布	郵送回収	30
	須磨区	45	老連配布	郵送回収	28
	垂水区	52	老連配布	郵送回収	20
	北区	66	老連配布	郵送回収	14
	中央区	40	老連配布	郵送回収	24
	西区	106	老連配布	郵送回収	60
尼崎市		385	郵送配布	郵送回収	192

西宮市	342	老連配布	老連回収	312
芦屋市	51	郵送配布	郵送回収	35
伊丹市	172	老連配布	郵送回収	43
宝塚市	108	郵送配布	郵送回収	60
川西市	75	郵送配布	郵送回収	40
明石市	223	老連配布	老連回収	139
三木市	110	老連配布	郵送回収	33
洲本市	94	老連配布	郵送回収	58
南あわじ市	205	老連配布	郵送回収	96
淡路市	150	老連配布	郵送回収	94
不明	－	－	－	37
合計	2,430	－	－	1398

２．インタビュー調査

被災地の老人クラブのリーダーに対してインタビュー調査を実施した。
調査に協力いただいたのは次の通り。

兵庫県老人クラブ連合会会長
洲本市老人クラブ連合会会長　　三澤泰士氏

伊丹市老人クラブ連合会顧問　　小川勁二氏

西宮市千歳老人クラブ会長　　長本政子氏

神戸市明和老人クラブ会長　　東　氏

第2章 被災地老人クラブの現状

第1節　阪神・淡路大震災と老人クラブ

１．震災の状況

高齢社会への突入後まもない 1995 年（平成 7 年）1 月 17 日 5 時 46 分、阪神・淡路大震災が兵庫県を襲う。これは死者 6434 名、全壊およそ 19 万世帯、半壊およそ 27 万世帯におよぶ大被害をもたらした。人口の密集した大都市の直下型地震だったため、火災や家屋倒壊などによる多くの被害者が生じるとともに、ライフラインが大打撃を負ったため、ピーク時には 31 万人を超える被災者が避難所生活を余儀なくされた。

このような大きな被害をもたらした原因は、もう一つある。高齢社会を直撃した大地震だったということである。震災による死者のおよそ半数は高齢者であり[1]、また、震災後避難所の劣悪な環境などに起因した二次的被害者の「震災関連死者」では 9 割以上が高齢者との記録もある[2]。このような高齢社会下での都市直下型地震は歴史上初めてのことであった。

この高齢社会下での震災という状況は、復興においても大きな意味を持つ。つまり、復興を進める過程でも、必然的に高齢化に配慮した対策がもとめられるということである。そもそもたとえ被災がなかったとしても、高齢社会に対応した社会づくりに取り組む途上にあったのであり、それゆえ、必然的に震災復興と高齢化に対する同時的な対応が求められたである。

そうした困難な状況にあって、それに対する政府による対応だけでは限界があった。その結果、震災復興過程において次の二つのことに注目が集まった。

一つは、「地域力」ともいうべき、地域住民同士のつながりや助け合いの重要性である。例えば、震災時に家屋に閉じこめられるなどした被災者の救出では、消防・警察・自衛隊など公的機関によるものが 4．8%だったのに対して、家族や地域住民などによるものが 16.5%だったとの推計結果もある[3]。また、地域の密接なつながりが当時まだ残っていた地域では、震災直後の救出活動において、住民の状況についてお互いに詳細に把握していたことにより迅速な救出ができ、被害者を最小限に食い止められたことがよく知られている。さらにその他多くの復興過程で、地域住民の助け合いや、地域組織などによる活動が大きな力を発揮するなど、そうした地域力がいかに重要であるかが、震災復興過程を通じて多くの人々に実感を伴って教訓になっていったである。

もう一つはボランティアによる支援活動の広まりである。震災における被災者救援活動において、直後の時期でも延 137 万人ものボランティアが被災地に集まり、行政では対応しきれない多くの活動を引き受け、多くの被災住民をサポートし、これもまた大きな力を発揮した。

こうした市民による自発的な活動の重要性は、災害からの復興という側面のみならず、これからの高齢社会の一つのあり方としても、非常に重要な示唆を与えることになった。このような、自発的な活動の重要な基盤の一つとなったのが、老人クラブである。

---

[1] 平成 12 年版消防白書によると、65 歳以上の死者が 3193 人で、全死者 6432 人の 49．6%になる。（平成 19 年現在の死者数は 6434 人に修正されている。）

[2] 阪神・淡路大震災社会福祉復興記念事業実行委員会（2005）、p.65。

[3] 同上、p.4。

被災当時、多くの地域では、老人クラブが復興活動の受け皿となって、さまざまな活動を繰り広げている。

２．復興施策と老人クラブ

まず一つには、仮設住宅における高齢化が重要な問題となった。兵庫県の調査によれば、仮設住宅の高齢化率は 30.3%、独居は 51.2%にのぼり[4]、場合によっては高齢化率 50%を越える仮設住宅も存在した。このように仮設住宅は将来の日本の高齢化状況を先取りするような高齢化状況にあり、要介護高齢者の問題や高齢者の孤独死などが深刻な問題として取りざたされるようになる。こうした問題に対して、兵庫県はまず 1995 年（平成 7 年）に「グループホームケア事業」により地域型仮設住宅の要介護者に対して介護員や看護師の派遣を行った。翌 1996 年（平成 8 年）には、仮設住宅への生活援助員（Life Support Adviser: LSA）の派遣を行い、生活指導や相談、安否確認、関係機関との連携、コミュニティーづくり、緊急時の対応、一時的家事援助など非常に多岐にわたる支援活動を行う体制をとった。加えて、「被災高齢者自立生活支援事業」により、生きがい交流事業などのコミュニティー支援にも取り組んでいる。このコミュニティ支援策の担い手として老人クラブが位置付けられた。「ふれあいセンター」を設置し、コミュニティー形成の拠点をつくるとともに、「コミュニティー被災高齢者生きがいづくり促進事業」として、被災地老人クラブに対して研修会を実施した。

こうした復興支援施策は、仮設住宅から震災復興住宅へと変わっても基本的には引き継がれた。震災復興住宅には高齢世帯生活援助員（Senior Citizen Supporter: SCS）が配置され、見守りや一時的な家事援助活動などの生活支援活動をおこなっている。また、震災以前からあった高齢者世話付き住宅（シルバーハウジング）が復興住宅において 4 千戸以上建設され、そこには LSA が派遣されている。さらには、LSA の研修・交流などの LSA 強化事業も行っている。2006 年（平成 18 年）からは、空住戸やコミュニティプラザ等に、常駐型の見守りを始めとした多様なサービスを提供するひろばを開設し、地域主体の新しい高齢者の見守りシステムの構築を進める「高齢者自立支援ひろば」を開設する先進的な高齢者見守りシステムの展開に取り組んでいる。そのほか、「ガスメータ等を活用した高齢者見守りシステムの普及促進事業」や「夜間・休日「安心ホットダイヤル」開設事業」等、SCS や LSA を補完する事業も進められている。こうした支援策に対して地域でサーポートする主体として、老人クラブが一定の役割を果たすことが期待され、とりわけ友愛訪問活動の一環として見守り活動へと取り組むようになっていった。

他方で、高齢化対策の流れもあって、被災時の 1995 年（平成 7 年）から老人クラブによる地域課題への取り組みを促進するために「老人クラブふるさとづくり推進事業」をはじめられる、いわゆる生きがい対策の重要な対象として老人クラブが位置付けられた。1998 年（平成 10 年）からは「老人クラブ指導者養成事業」、2000 年（平成 12 年）には「高齢者の仲間作り支援事業」、2001 年（平成 13 年）の「シニアニュースポーツ普及事業」など、老人クラブ活動の活性化をはかる施策がこの時期にさまざまに行われている。

こうした高齢化対策の一方で、震災の教訓として明らかになった、ボランティア活動の活性化

[4] 上田（2000）p.12。

を目指す施策がさまざまにおこなわれた。1995 年（平成 7 年）の震災発生直後には、「新しいボランティアシステム」の検討を開始すると同時に、「震災復興ボランティアグループへの活動助成」を導入した。翌 1996 年（平成 8 年）には、「ボランティアコーディネーター研修」の実施や「福祉救援ボランティア活動マニュアル」の作成等、さらに具体的な施策に取り組んでいる。その一方で、より広く市民の自発的活動を活性化するために、1998 年（平成 10 年）には国の「特定非営利活動促進法」制定を受け、兵庫県でも「県民ボランタリー条例」が策定され、その後 2001 年（平成 13 年）には活動をサポートする「ひょうごボランタリープラザ」が設置された。さらに 2002 年（平成 14 年）には「県民の参画と協働の推進に関する条例」が制定され、県民の主体的な参画による地域づくりの支援体制を強化することになった。このように、震災の教訓を糧に、全国でも先進的に新たなボランタリーセクターの形成を積極的に進めてきた。

このように、被災地では、震災復興に大きな力を注いできた。そのなかで、とりわけ重視してきたのが、地域住民の自発的な育成をはかることによる、普段からの地域力の活用であり、それこそが、あの震災のような未曽有の緊急事態にもっとも重要な、そして命を守る上でも効果的なものだという教訓を意識してのことである。これまでの復興過程でそうした地域のボランタリーな活動の重要な担い手として老人クラブは位置付けられてきた。

第2節　老人クラブの復興過程

2010 年 1 月で、それからから 15 年がたった。高齢者組織である老人クラブにとって、この 15 年は長い。仮に、震災当時若手会員だった場合、当時 65 歳だったとしても、2010 年には 80 歳になるはずである。ましてや、当時会長やリーダーとして中心的な役割を担っていた人々は、さらに年代が上になっているはずである。その意味で、この震災 15 年という契機は、これまでの復興経験を検証しておく最後のチャンスになるかもしれない。

震災当時については、クラブの状況についての記録資料が残されている。当時の記録では、震災から 1 年以内に解散した老人クラブは、兵庫県老人クラブ連合会の中では、一つもなかったとされている。また、神戸市老人クラブ連合会の記録では、解散したクラブが見られたが、他方、仮設住宅などで、クラブが新たに新設されたケースもあったため、震災の前後でのクラブ数は 2 減にとどまったという。

クラブの被災地のクラブはリーダーや会員の被災や離散から解散の危機に直面したクラブも少なくなかったが、「老人クラブの灯を消すな」を合言葉に、全国からの救援金や「友愛の手紙」など、さまざまな支援が届けられた。全国の老人クラブが拠出した救援金は総額 19 億 6000 万円余にもなった。その一部は単位老人クラブにも配分され、クラブの復興や支援活動に利用された。地域によっては「当時の救援金が 15 年たった現在も役立っている」というところもある。この高齢者同士の連帯の力は非常に大きなものがある。

他方で、復興過程で各地域でクラブが再興され、また新たに設置されて地域の復興に役立っていった。復興公営住宅などでは、先にみたように高齢者があつまっていることから、老人クラブがコミュニティの受け皿として設置されていった。また、被災当時にまだ高齢者ではなかった住民が、復興活動での経験をもとに高齢者になって設立したり、復興活動や防災活動に取り組むな

かで地域の受け皿として設立にいたったケースなども見られる。こうしたクラブの設置が、場合によっては大きな効果をもたらした。自由回答の記述には次のようなものもある。「新興地域で震災以前は地域の交流がほとんどなかったが、震災によって地域連携の重要性が認識され、クラブの立ち上げ機運が高まった。設立後はまちの雰囲気が友好的に変身してきている。」

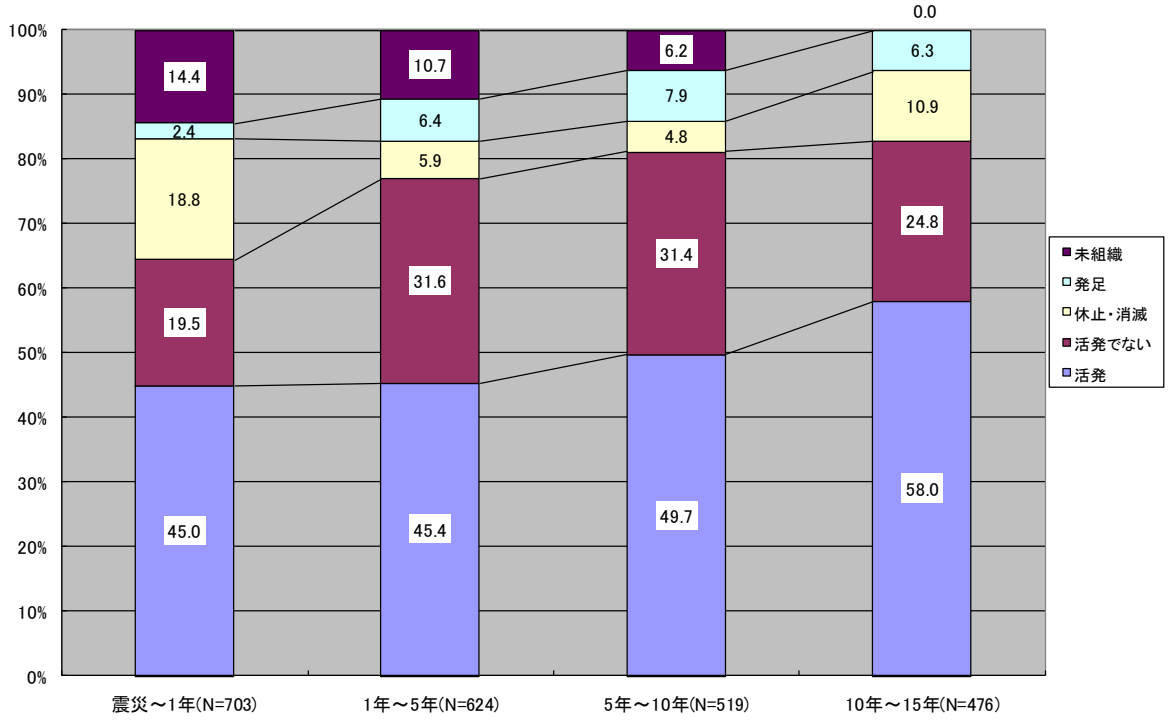
第３節　震災復興過程における老人クラブの状況

震災の当時から現在までを「震災～1 年ごろ」「震災後 1 年～5 年ごろ」「震災後 5 年~10 年ごろ」「震災後 10 年~15 年ごろ」の 4 つに区分して、それぞれの時期におけるクラブの状況を尋ねた。15 年という長いスパンを回顧的に尋ねたため、既に以前の状況については十分に判断できる資料や情報がないため「わからない」というケースがやはり多くなった。以下では、「わからない」は除いた結果を見ていく。

ここでは「活発」(「多くの会員により積極的に取り組んだ」「一部の会員による活動が活発になされた」)、「活発でない」(「活動はあまり活発ではなかった」)、「休止・消滅」(「活動休止状態だった」「クラブがなくなった」)、「発足」(「クラブが発足した」)、未組織 (「まだクラブはなかった」) の 5 つに整理した。　震災当時からの状況をみると、「震災～1 年ごろ」の時期には震災にもかかわらず 45.0%が「活発」に活動を展開していた。他方で、「活発でない」は 19.5%、「休止・消滅」は 18.8%であり、合わせて 38.3%はクラブの存続が危うくなったことがわかる。震災当時の記録では公式には震災にもかかわらず消滅したクラブはなかったが、実際には活動を十分展開するには困難な状況に陥っていたクラブは少なくなかったようである。

その後の過程を見ると、「活発」に活動を展開していた割合は年々増大しており、被災地のクラブが復興過程で活性化されていった様子がわかる。他方、「活発でない」割合は「1 年～5 年」「5 年～10 年」の時期に 3 割程度に増加した。「10~15 年」には 24.8%と減少しているが、他方で「休止・消滅」が 10.9%と多くなっている。「活発でない」と「休止・消滅」を合わせた割合はおよそ 35%＋α でこの 15 年一貫して推移しているということがわかる。

図 2-1　老人クラブの復興過程



以上の結果から、復興過程において老人クラブがどのような経過をたどったのかを見るために、それぞれの時期の間で、クラブの状況がどのように推移していったのかを推計した。ここでは１５年のスパンでの経過をみるために、被災当時から存続しているクラブにデータを限定し、「活発」か「低調・存続危機」（上記の「活発でない」「休止・消滅」）かの 2 つに分けて、それぞれの時期のどのように推移したのかを推計している[5]。

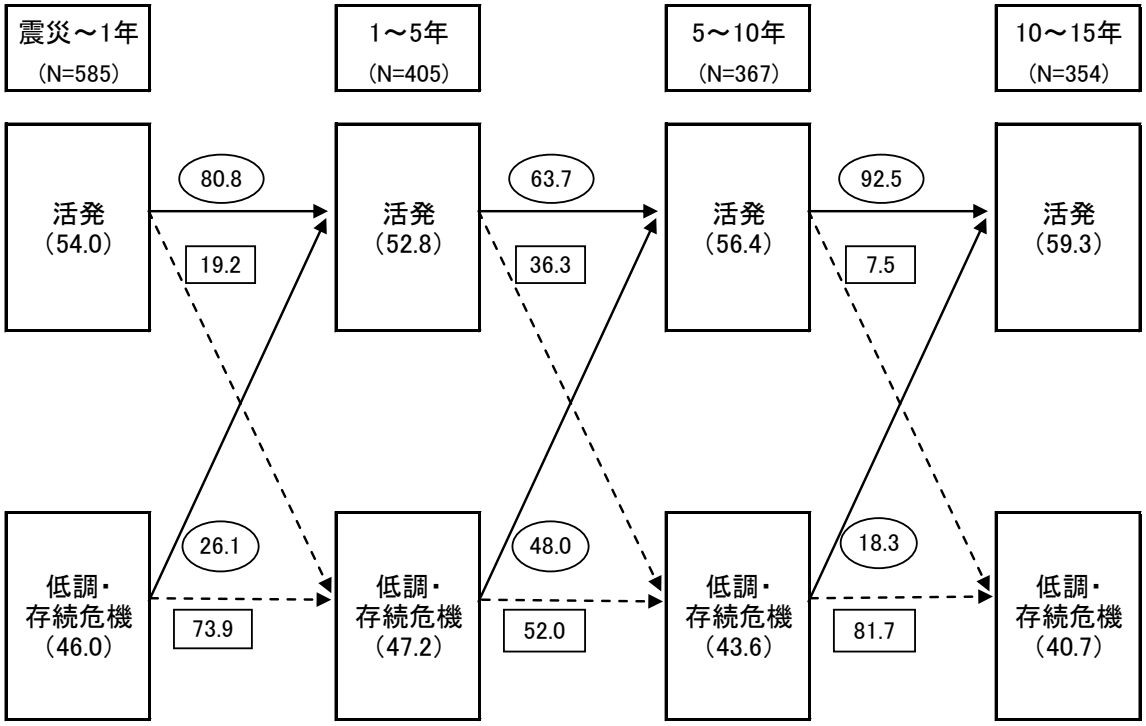
推計結果からみると、回答のあった被災当時から存在するクラブのうち、「震災～1 年」期には、54.0%が被災したにもかかわらず活発な活動を展開していたが、46.0%は被災により活動が活発に展開できなかったり、活動休止状態や存続の危機に陥った。

その被災直後に活発だったクラブのうち、80.8%は、震災から「1 年～5 年」期にも活発な状態を維持していた。他方、19.2%は、被災直後には活発だったが、その活発さを維持することが困難になった。

同様に各期間の推移結果をみると、震災後 5 年～10 年の時期に活発なクラブな活発でなくなるクラブとの分かれ目があることがわかる。震災後 1 年から 5 年ごろまでに活発だったクラブのうち、次の 5～10 年ごろまで引き続き活発だったクラブは 63.7%であり、したがって 4 割近くは活動が活発でなくなるか、存続の危機に陥っている。だが、5～10 年の時期に活発だった場合は、92.5%がその後 10～15 年の時期にも活発さを維持できている。逆に、活動が低調・存続の危機にあった場合にも、81.7%がその後も活発になっていない。

[5] ここでは、連続する各 2 期間の状況が明確に分かっているサンプルについて集計した結果であるため、各期間でサンプルサイズが異なっている。すべての期間に状況が明確に判明しているサンプルに限定すると、途中機関が不明なサンプルの状況を排除した結果になるため、可能な限り多様なサンプルを含めた推移の状況をみるという目的から、このような集計方法を採用した。したがって、ここでは「推計」という表現を用いている。

図 2-2　クラブの活動状況の推移



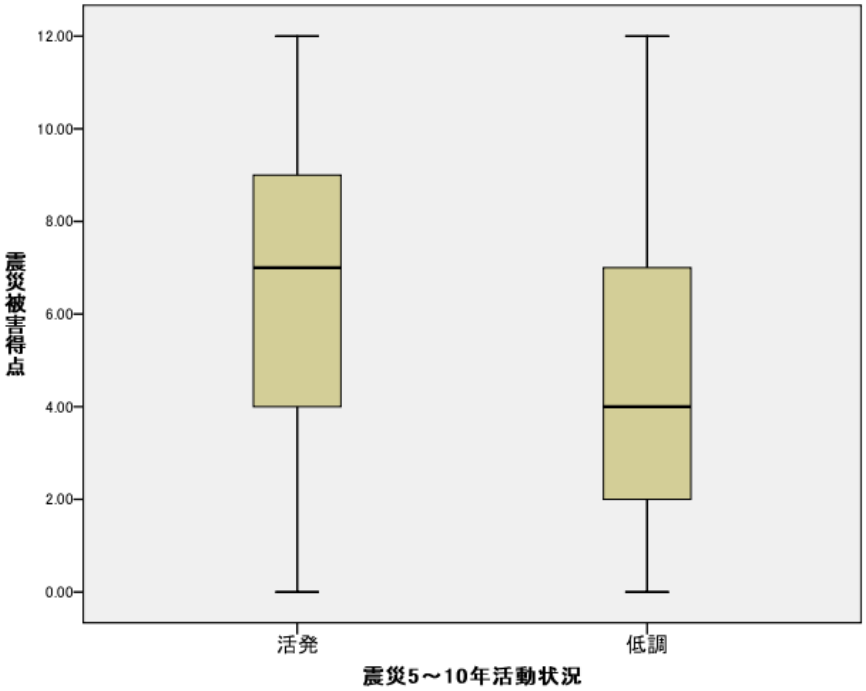
第４節「5～10 年」期に活発になった要因について

そこで、この「5～10 年」期に焦点を当て、この時期に「活発」だったクラブと「低調」だったクラブを比較し、「活発」だったクラブの特徴を検討することで、それにつながった要因を見ていこう。

１．被災状況の違い

「活発」だったクラブと「低調」だったクラブとの震災における被災状況をみると、「活発」のほうが被災の状況がより深刻だったということがわかる。つまり、被災による影響がなかったために活発な活動が可能となったというわけではなく、むしろ、より深刻な状況にあったにもかかわらず、活発なクラブ活動が展開されたということである。

図 2-3　地域の被災状況評価の平均値

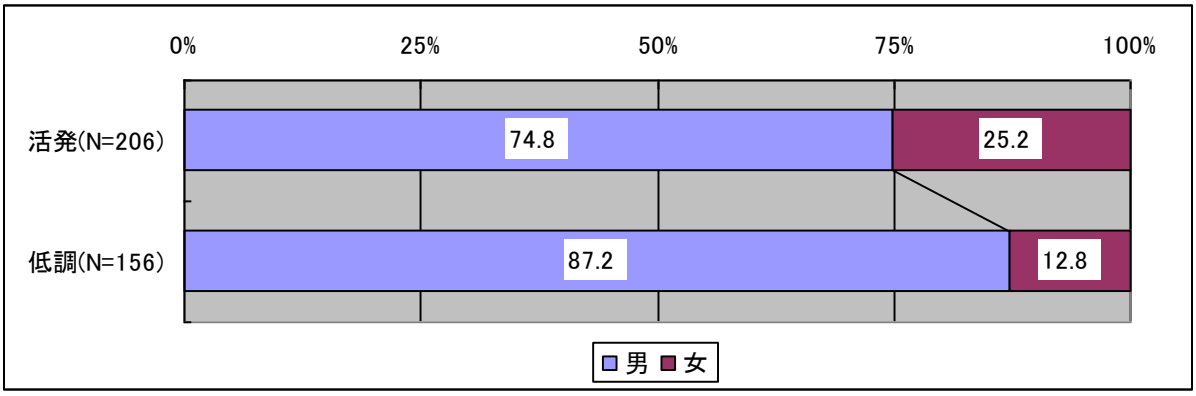


	N	平均値	標準偏差
活発	199	6.899	3.357
低調	153	5.150	3.490

２．会長の性別

会長の性別を見ると、「活発」だったクラブのほうが、女性会長の割合が大きい。これまで老人クラブでは女性部会や若手部会の設置など、クラブ運営の改革を進めてきたが、そうした新しい組織の在り方により積極的に取り組んでいるクラブが活発な状況につながっているという可能性を示しているのではないか。

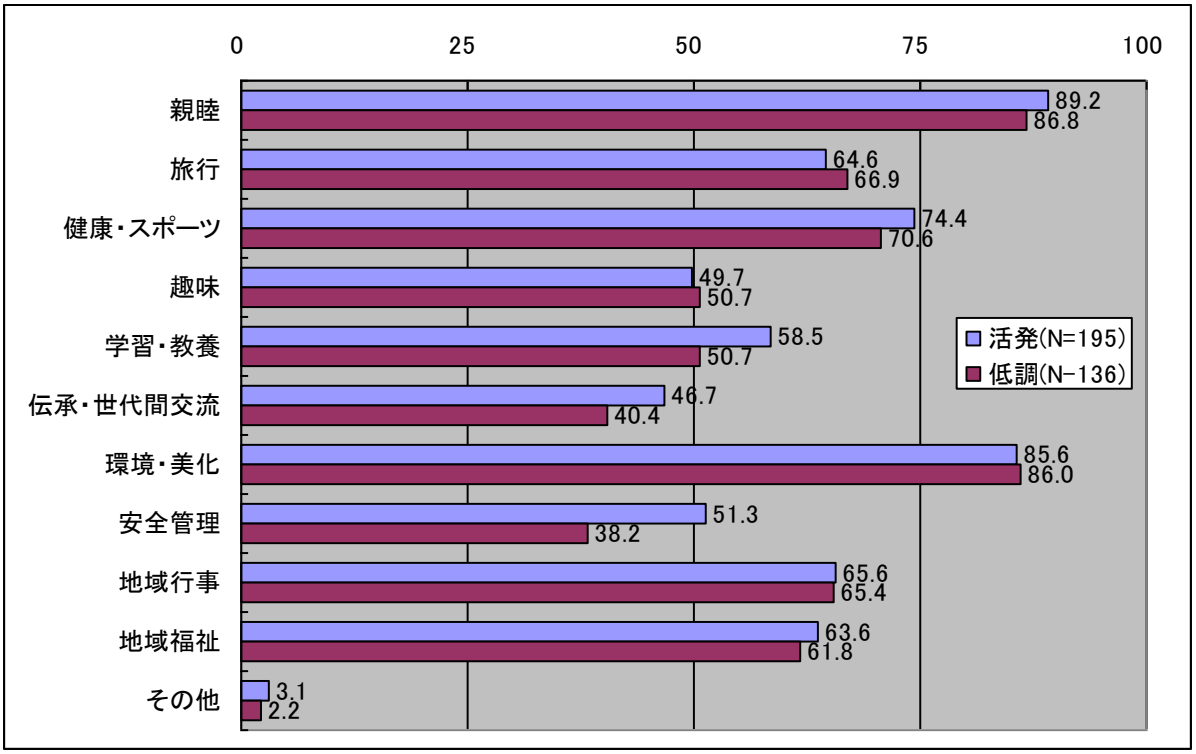
図 2-4　現在の会長の性別



３．活動内容

活動内容についてみると、「活発」では「安全・管理」で 18.1 ポイント、「学習・教養」で 7.8 ポイント、「伝承・世代間交流」で 6.3 ポイント大きくなっている。「安全・管理」には、防災活動なども含まれており、震災により直接関連する活動であると考えられる。また、「伝承・世代間交流」も、被災後に子供たちを元気づけるために始めらたり、子供やその親の世代とのつながりと作ることを目的とするなど、復興過程での地域づくり課題の一つとして取り組まれてきたという側面も持っている。こうした、震災の教訓を生かした活動により積極的に取り組むことが活性化につながっていったということを示唆している結果であるとみることができよう。

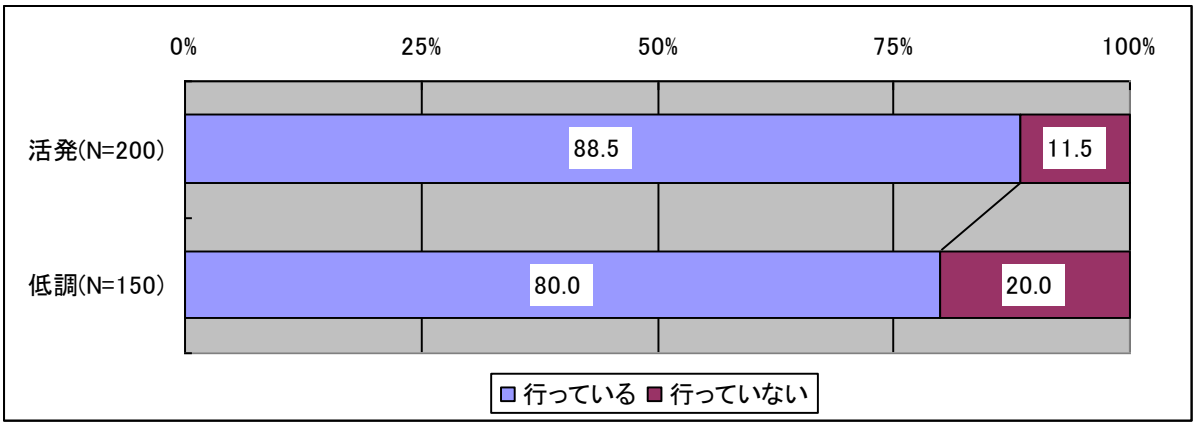
図 2-5　現在行なっている活動内容



４．見守り活動の状況

そうした震災の教訓につながる活動に、見守り活動がある。被災地直後、地域の高齢者の状況がわからず、救出活動やその後の状況把握に大きな支障をきたした経験もあって、日頃からの状況把握や安否確認の重要性が改めて認識され、地域において見守り活動が展開されるようになった。さまざまな地域の主体が見守り活動に取り組んでいるが、老人クラブもその重要な担い手の一つである。この活動の取り組み状況についてもると、「活発」なほうがやはり活動率が高くなっていることがわかる。

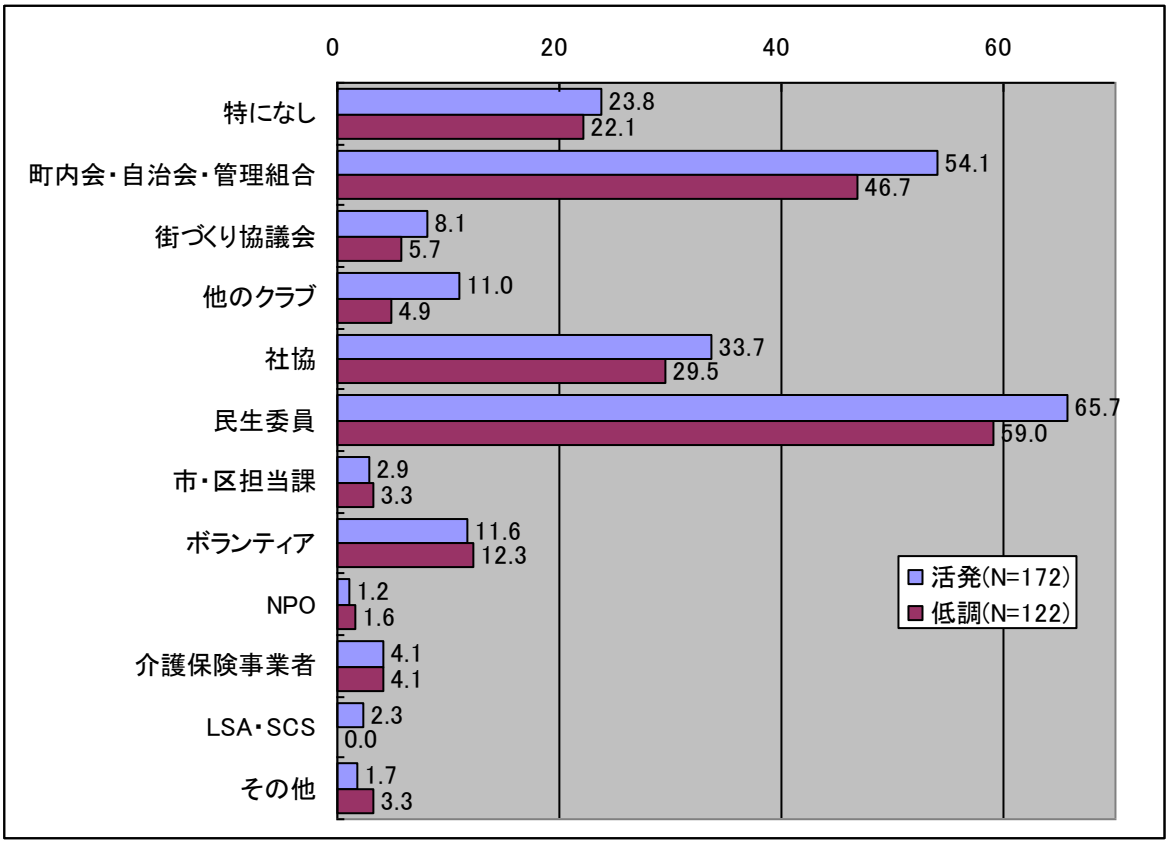
図 2-6　見守り活動実施状況



５．連携機関

見守り活動を展開する際には、独自に見守り活動に取り組みだけではなく、そこで得られた情報を十分に生かすために、他の組織といかに情報を共有し、必要な際にうまく連携できるように関係を構築しておく必要性は大きいといってよい。そうした見守りにおける他の組織との連携は、他方でクラブの外へと開かれた組織運営にもつながっていくと考えられる。この連携組織の状況についてみてみると、「活発」のほうが「町内会自治会」「民生委員」「他のクラブ」「堺福祉協議会」などの組織との連携している割合が高くなっていることがわかる。

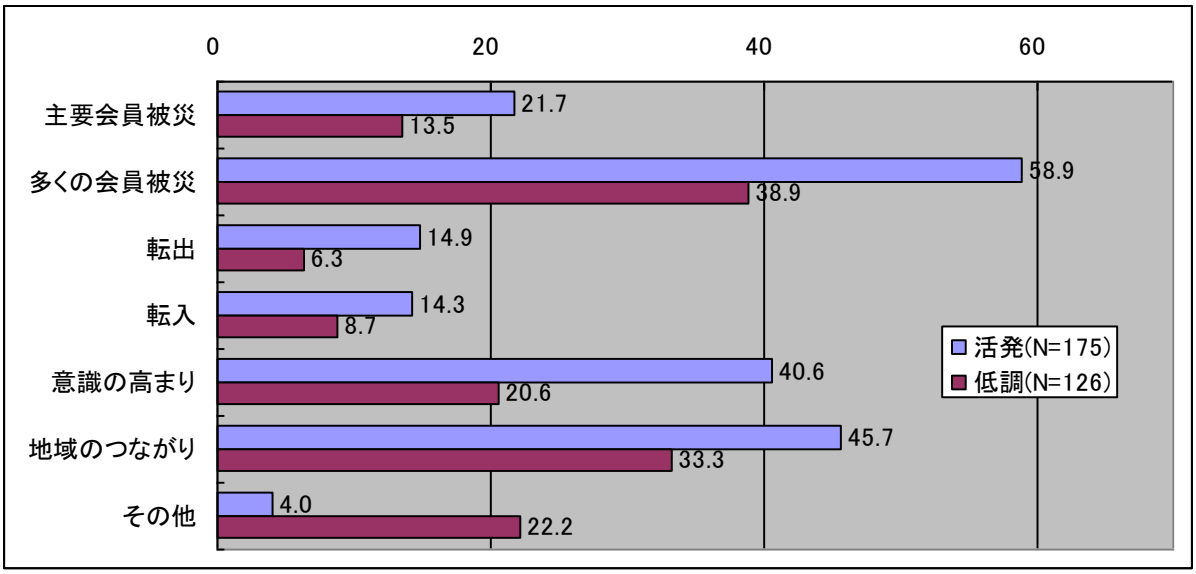
図 2-7　見守り活動で連携している組織



６．震災における影響の理由

先にみたように、老人クラブは被災状況にあっても活発な状況を維持できた組織と、低調な組織とがあったことがわかる。震災の前後で、何らかの影響を受けたクラブについては、その理由を尋ねている。その結果についてみてみると、ほとんどの項目で「活発」のほうが高い割合を示している。先にみたように、「活発」のほうが被災状況がより深刻だったため、「多くの会員が被災」などが高くなっているが、さらに「会員や住民の意識が高まった」「地域のつながりができた」でも「活発」のほうがかなり高くなっていることがわかる。このように、より深刻な被害をこうむったとしても、それによって住民の連帯意識などが高まったり、地域のつながりが構築されたりといった地域の変化が生まれ、それをうまく生かすことで「活発」な状況につながったのではないか。

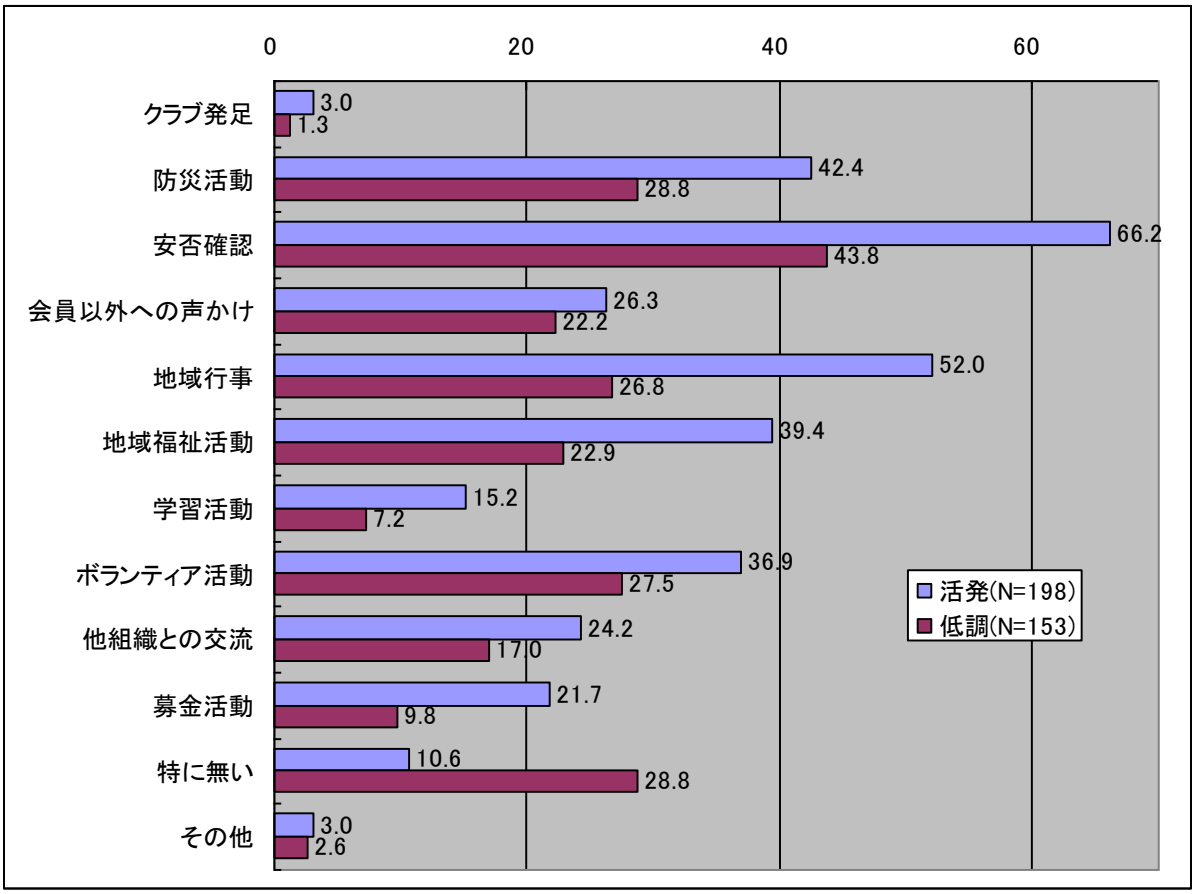
図 2-8　震災による影響の理由



７．復興過程で活発になった活動内容

復興の過程で活発になった活動内容についてみてみると、「活発」のほうがほとんどの活動で高くなっていることがわかる。特に「地域行事」が 25.2 ポイント、「安否確認」が 22.4 ポイント、「地域福祉活動」が 16.5 ポイント、「防災活動」が 13.6 ポイント、「募金活動」が 11.9 ポイントなど、より直接震災の教訓に結び付く活動で特に大きな差が生じており、やはり、震災の教訓をうまく生かすことができたクラブが活発さにつなげることができたのではないかとみることができよう。

図 2-9　復興過程で活発になった活動内容



８.「活発」の要因について

以上の結果は、震災での被災経験と復興活動がその後のクラブ活性化に役立っているということを示しているのではないか。

まず、震災の被害が深刻であったが、他方でそれは地域住民やクラブの会員の意識が高まりや地域のつながりを構築することにつながり、それらが復興過程でのクラブ活動活性化の重要な基礎になった。

また、活発なクラブは、防災活動や見守り活動など、震災の教訓により直接結びついた活動に積極的に取り組むとともに、地域行事や世代間交流など、高齢者だけではない他の世代を含んだ広い意味での地域との交流活動をより積極的に展開している。

さらに地域の他の組織等と連携するなど、クラブ内で閉じた活動だけでなく、広く地域に開かれた組織運営がはかられることで、クラブの存在と意義を地域に認知させることが可能となり、他方また、地域と有機的に結びついたクラブの展開が、クラブのみならず地域の活性化にもつながることになる。

したがって、こうした活動展開や組織の変革に震災の復興経験を活かすことができたクラブが、活発な活動を維持し、ひいては地域の復興にも貢献してきたと見ることができよう。

９.「低調」の要因について

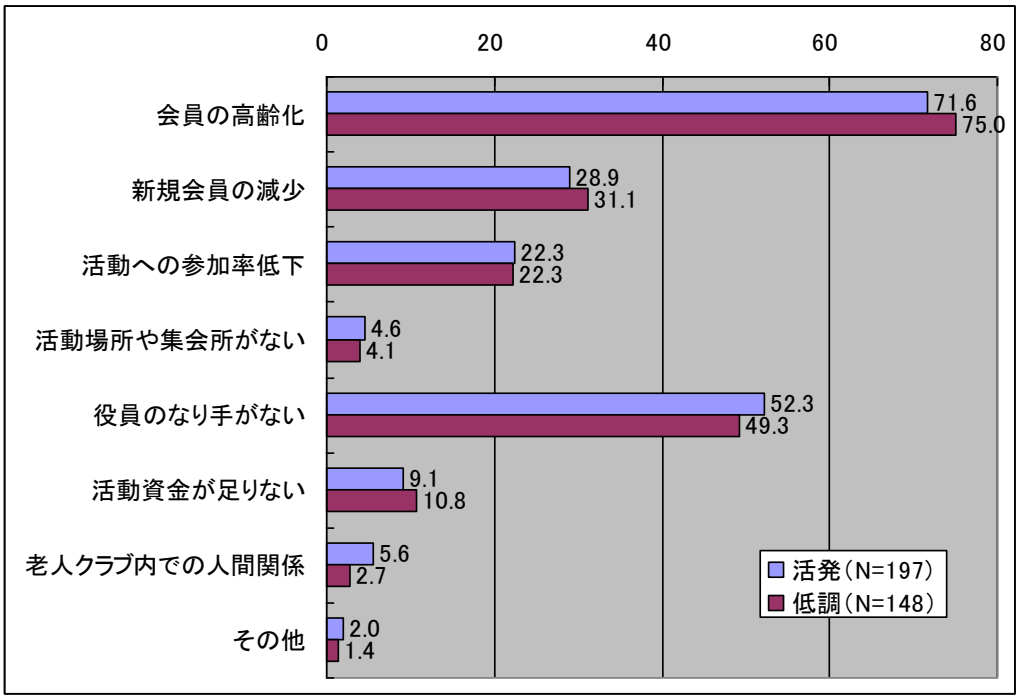
では、「5 年～10 年」期に「低調」になったクラブの理由は何か。この点を検証するのは難しい。「活発」なクラブの特徴は以上みてきたとおりだが、「低調」なクラブはその逆の特徴を持っているということである。が、震災の教訓をうまく生かすことができなかったということが原因だろうか。もちろんそうした側面もあるだろうことは否定できないが、それ以外の要因も考えられる。

まず、平均値では被災状況は「低調」のほうが低かったが、これはあくまで平均値での話であり「低調」のほうにも被災状況が深刻なクラブが含まれている。そうしたクラブでは被災状況が深刻であるがために、多くの住民や会員が地域を離れるなど、人口移動が大きく生じた。調査の自由回答やインタビューなどによると、他の地域に移っていた元の住民が戻ってきたり、新たな住民が移住してき始めたのが震災から 3～5 年ごろだという。だが、つまり、被災直後から本格的な復興へと移っていく時期がその時期に当たる。しかし、たとえば新規住民の流入にしても、それによって「地域がにぎやかになった」というところと「地域のつながりが希薄になった」というところとの正反対の意見がみられ、同じ現象でも地域によって大きく状況が異なる可能性があることが改めて確認される。また、元の住民が戻ってきた地域ばかりではない。地域によっては、震災で元の住民がほとんど戻ってきていないというところもある。震災の影響は地域によってそのあらわれ方に大きな違いがありうるのであり、その意味で、「低調」の理由をクラブの運営上の問題に帰するだけでは、十分ではないだろう。

そうした震災後の地域状況の差に加えて、理由として考えられるのが、世代交代である。会長の平均年齢はおよそ 75 歳程度であり、震災当時の中心メンバーもだいたいおなじくらいの世代であろう。とすると、「5 年～10 年」期には中心メンバーは 80 代になっており、この時期に震災当時のメンバーから世代交代が生じた可能性は高い。

それと関連するが、世代が交代せずに中心メンバーが残ったとしても、当然ながら5年～10年期にはその分年代が上昇しており、クラブの高齢化が進む。インタビューでも、この5年から10年の時期に、クラブの高齢化がすすんで次第に十分な活動ができなくなったクラブがみられたという意見があった。図は現在の状況であるが、クラブ運営上の困難で「低調」のほうが「会員の高齢化」「新規会員の減少」がわずかであるが高くなっており、そうした状況が示唆されると見ることもできよう。

図 2-10　クラブ運営上の困難



以上のように、「低調」の理由には、

① 復興過程において震災の教訓を生かした活動にうまく取り組むことができなかった

② より開かれた組織運営へと十分に転換することができなかった

という点があげられるが、さらにその背景として

③ 人口移動などで、地域の状況が変化し活性化を難しくした

④ 中心メンバーの世代交代が生じた

⑤ 高齢化が進んで活発な活動が困難になった

といったことなどが考えられるだろう。

第５節　震災後設立されたクラブの特徴

既にみたように、震災から 15 年たった現在、回答のあった被災地の老人クラブのうち、18.3%は震災後に設立されたものであった。この新設クラブには、

① クラブが消滅した地域において組織が復活したケース

② そもそもクラブの存在しなかった地域で設立されたケース

③ 既存クラブの規模が大きくなり、分かれて新設されたケース

などが含まれている。このうち、復興過程での設立において焦点を当てるべきは①と②のケースであろう。①のケースにおいては、消滅の理由に震災が影響している場合が含まれるとともに、組織が再度復活した理由に復興過程での地域組織の重要性が含まれる可能性がある。②においては、復興住宅などの震災後の新興地域にクラブが設置された場合や、先の①同様、復興過程での地域組織の重要性が意識されて設立に至ったケースがあるとかがえられる。

以下においては、震災後設立されたクラブ（以下、「震災後」）の特徴を、震災以前から存続しているクラブ（以下「震災前」）との対比を行いながら見ていこう[6]。

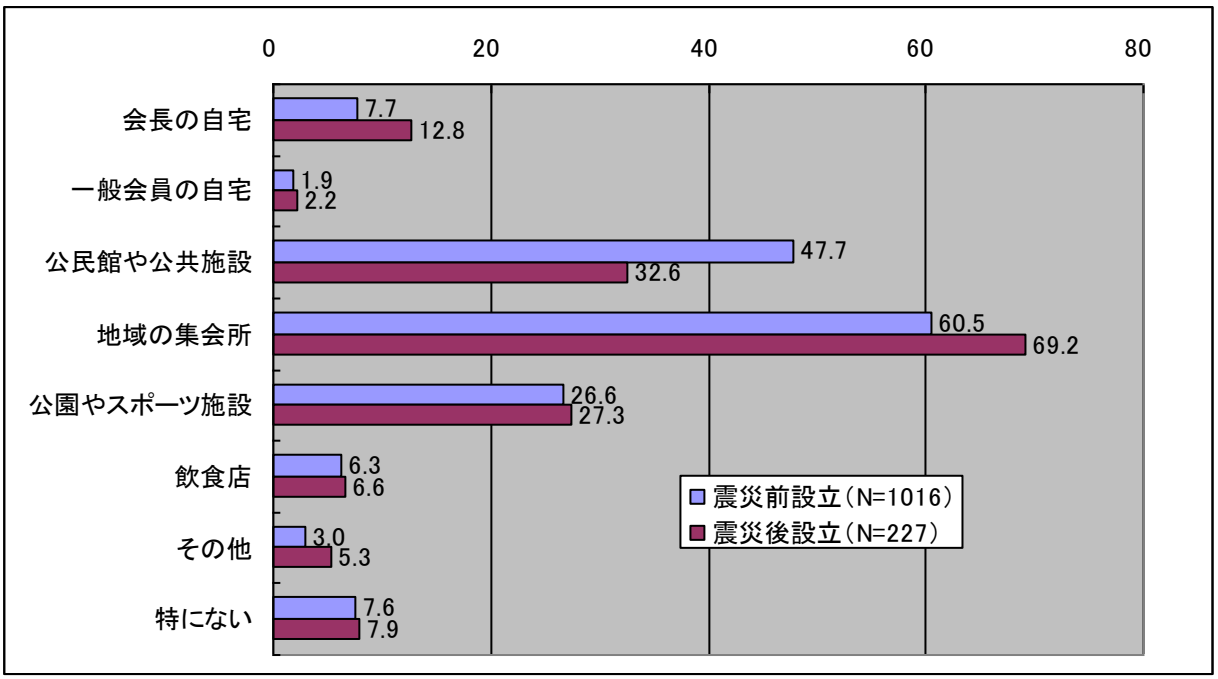
[6] 残念ながら、新設クラブの設立理由や復興過程での経過については、その経緯についてアンケートで詳細には把握しておらず、また、十分に分析可能なデータを得ることができなかった。

１．活動拠点について

クラブの主な活動拠点についてみると、いずれも「地域の集会所」「公民館や公共施設」「公園やスポーツ施設」の順となっており、割合の高い順に大きな違いはない。「特にない」の割合もほとんど同じである。が、「震災前」のほうは「公民館や公共施設」が 47.7%と「震災後」に比べて 15.1 ポイント大きくなっている点に特徴がみられる。「震災後」のほうは、「地域の集会所」で 8.7 ポイント、「会長の自宅」で 5.1 ポイント大きくなっている。

「震災後」のクラブは、震災復興公営住宅など、新築されて地域の集会施設が整備された地域が含まれていることから「地域の集会所」の割合が高くなっていると考えられる。他方、「公民館や公共施設」が低くなっている点は、そうした施設が既存の組織によって既に利用されてしまって余裕がないという可能性が考えられる。また「会長の自宅」の割合が高いことも、活動拠点にかんして十分でないクラブが存在する可能性を示しているかもしれない。

図 2-11　主な活動拠点

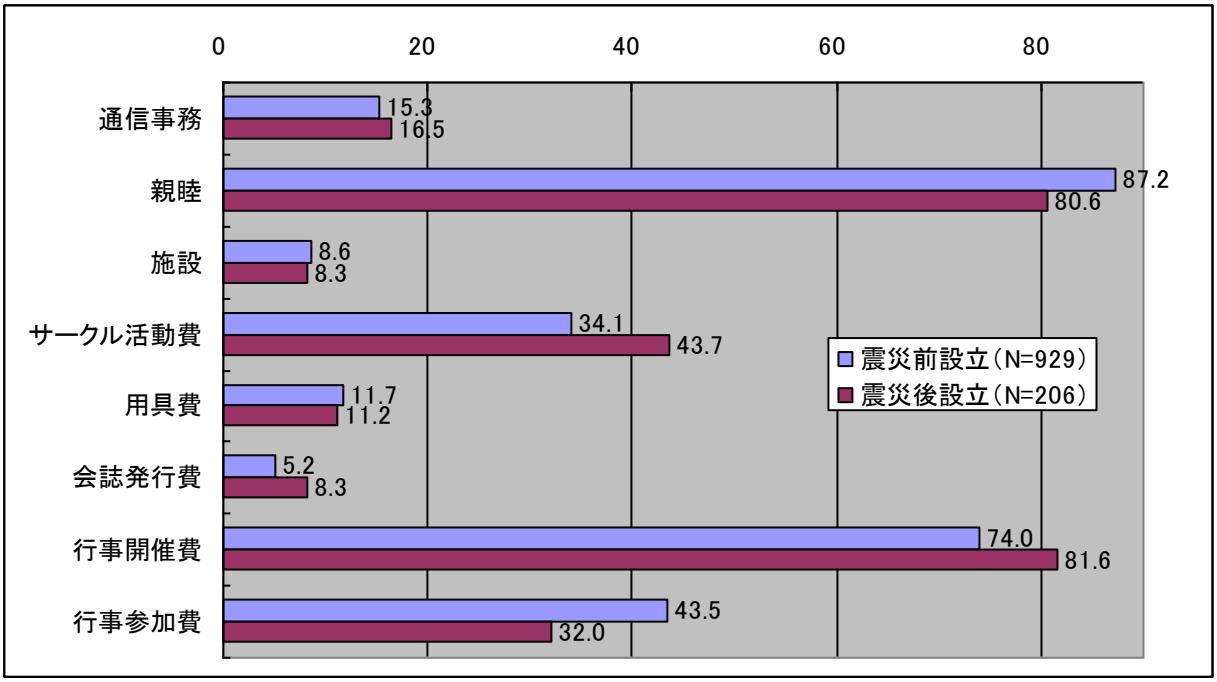


２．主な支出項目

主な支出項目（上位三つ）の結果を見ると、「震災前」では「親睦」で 6.6 ポイント、「行事参加費」で 11.5 ポイント高くなっている一方で、「震災後」のほうは「行事開催費」で 7.6 ポイント、「サークル活動費」で 7.6 ポイント、「開始発行費」で 3.1 ポイント高くなっている点に特徴がある。

「震災後」においては、会員のサークル活動、自主的な行事開催、会報誌の発行といった、復興過程での「活発」だった組織で行われていた活動により力を入れている様子がうかがえる。この点は、やはり復興を契機に設立されたクラブが多いゆえに、復興過程での教訓や課題をよし意識した活動が展開されているということを示すと考えられる。

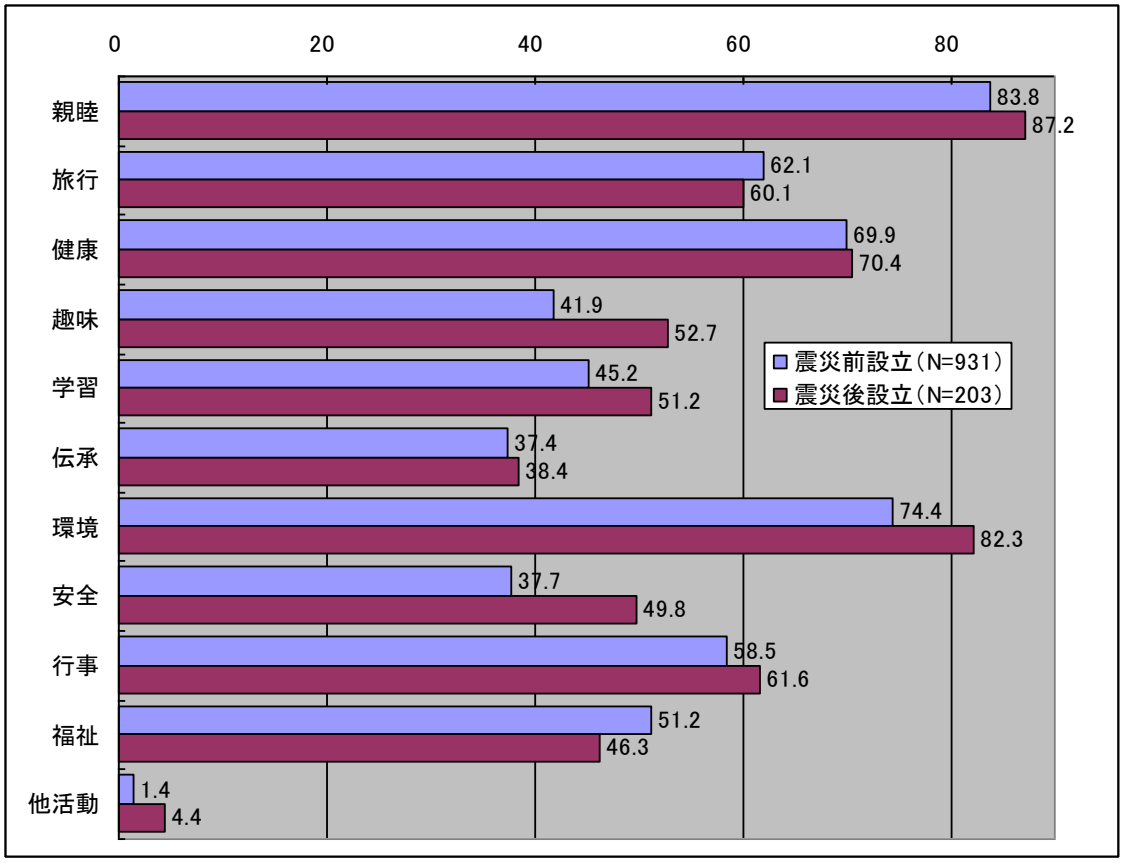
図 2-12　主な支出項目



３．活動内容

その点は、現在行っている活動の内容にも表れている。「震災後」では、「趣味」で 10.8 ポイント高い割合で活動している。「学習」も高い。これらは、先のサークル活動において活発に展開されうる活動である。また、とりわけ防災活動などを含む「安全」は 12.1 ポイントも高い割合になっており、これらは、震災の教訓や課題がより意識された活動展開が行われていることを示しているといえよう。

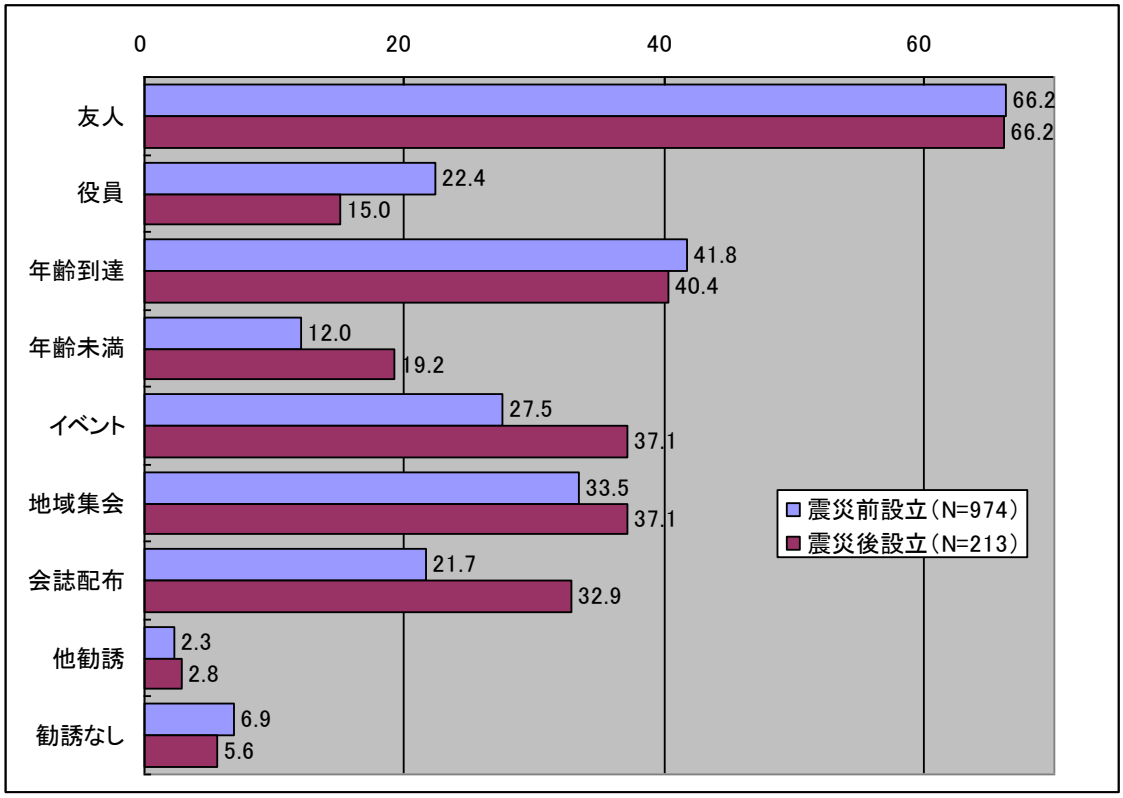
図 2-13　活動内容



４．勧誘方法

新入会員の勧誘方法を見ると、「震災後」では「イベント」で 9.6 ポイント、「会報誌配布」で 10.2 ポイント、「年齢未満」で 7.2 ポイント高くなっている。この違いは震災前から存続していて比較的長い歴史を持ち、地域に存在を知られているわけではなく、新しい組織であるがゆえに、組織独自の活動だけではなく、地域のイベントや会報誌などで積極的に存在を示す必要性に迫られざるを得ないという事情も働いていると考えられる。

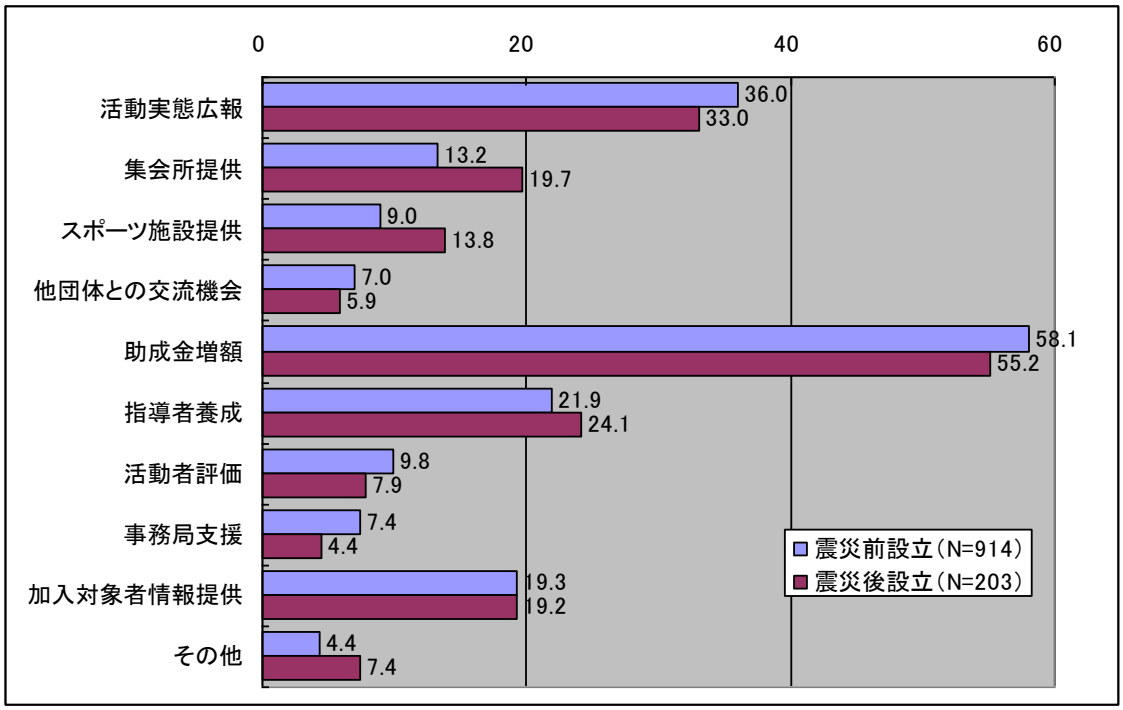
図 2-14　勧誘方法



５．必要な支援

行政などからの必要な支援をみると、「震災前」とおおよその傾向に違いは見られない。ただし、「集会所の提供」「スポーツ施設の提供」においてそれぞれ 6.5 ポイント、4.8 ポイント違いがある。主な活動拠点では、「震災前」では地域の集会所が多かったが、しかし、地域の集会所を占有しているわけではなく、他の組織と共有しているため、思うような活動拠点の活用ができていないという可能性を示している。「スポーツ施設の提供」においても同様の事情があると考えられよう。

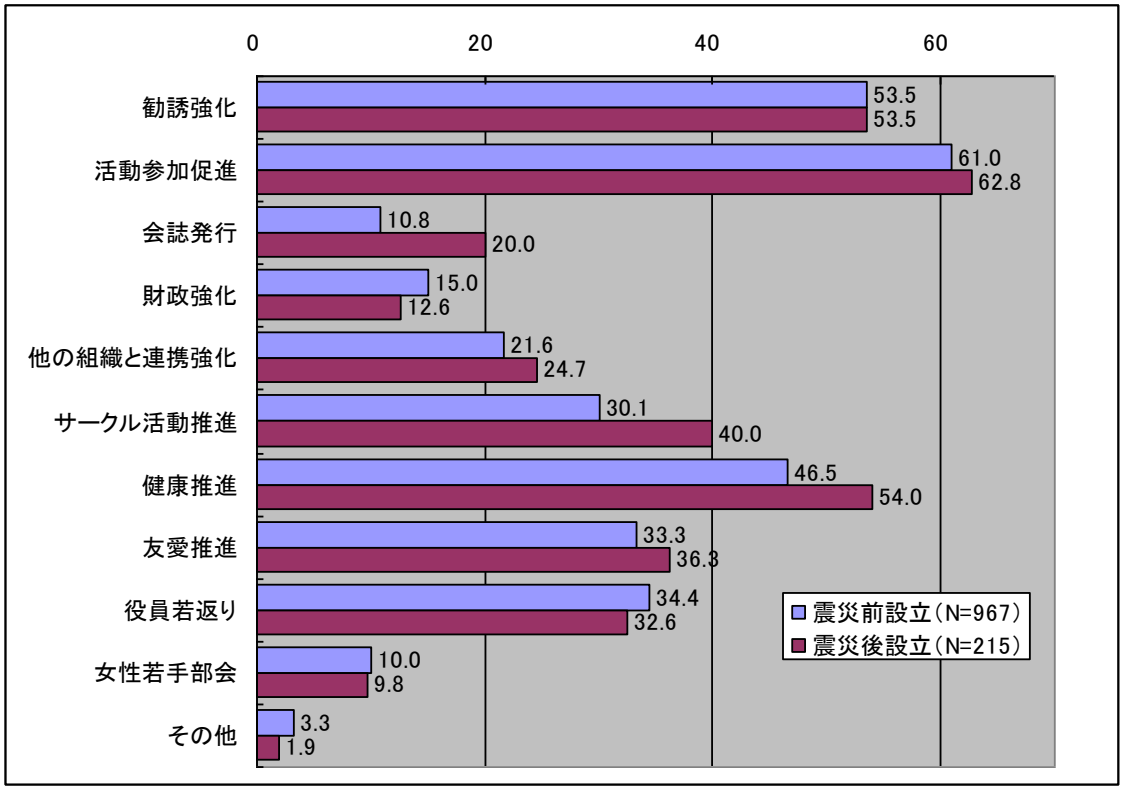
図 2-15　必要な支援



６．活性化の取り組み

クラブの活性化のために取り組んでいる活動を見ると、「震災後」のほうが、「健康推進」「サークル活動推進」「会報誌の発行」でそれぞれ 7.5 ポイント、9.9 ポイント、9.2 ポイント高くなっている。この結果も、先の主な支出項目、活動内容など他の項目の結果と一致しているといってよいだろう。

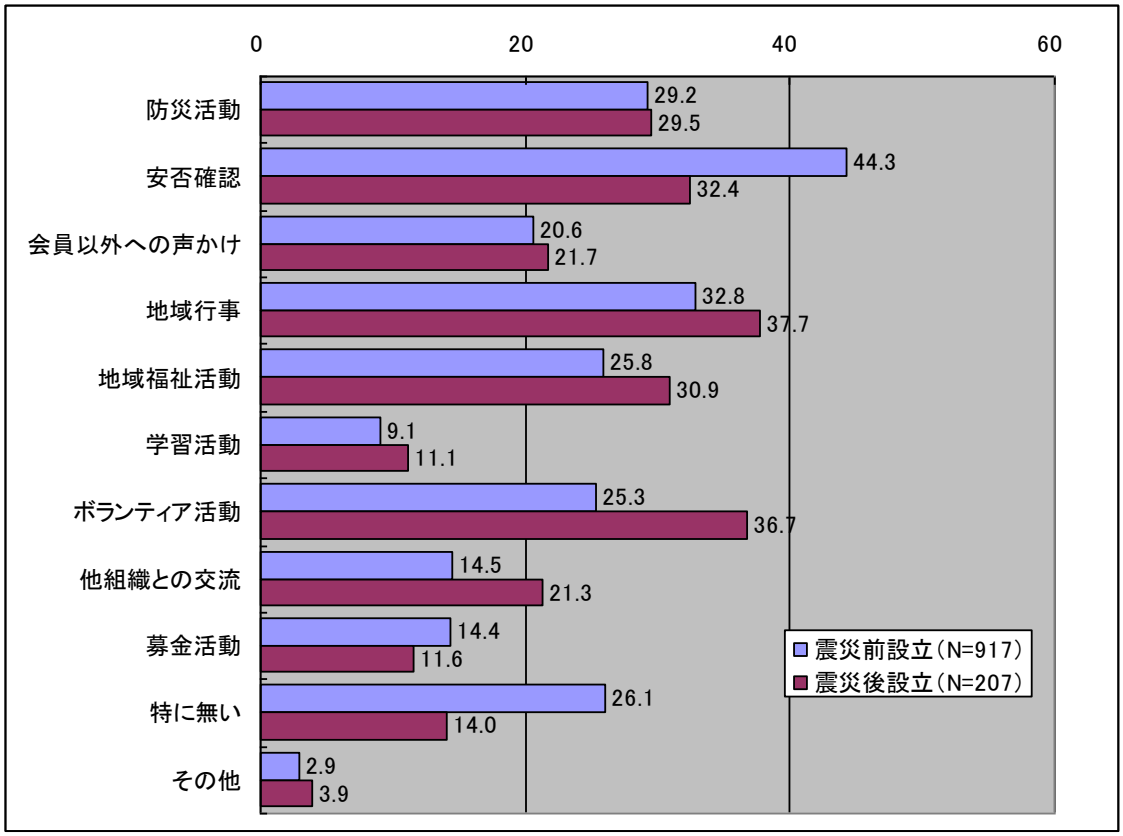
図 2-16　活性化の取り組み



７．復興過程で活発になった活動

復興過程で活発になった活動を見ると、「震災後」では「ボランティア活動」「「地域福祉活動」「他の組織との交流」などで高い点が特徴となっている。一方、「震災前」では「安否確認」で11.9 ポイントとかなり大きくなっている点に特徴がみられる。この結果はまさに復興過程で設立された「震災後」では、ボランティア活動や地域福祉活動などの社会的活動への取りくみや他の組織と積極的に交流した開かれた活動がより意識される環境の中で活動がはじめられたことが多きな意味を持っているともいえる。他方、「震災前」の場合、まさに震災以前から活発な活動はこの項目には反映されていないという点に注意しなければならない。その点を考慮しても、震災復興過程で「安否確認」がより重要な課題として意識され、取り組まれてきたという復興過程での老人クラブの活動の変化を見て取ることができるだろう。

図 2-17



第３章　被災地老人クラブの変化

先にみたように、震災復興過程で、老人クラブの在り方は少しずつ変化を遂げてきている可能性がある。今回の調査では、震災からの 15 年を振り返る形で復興経験を調査した。そこでは、個々のクラブの変遷は見て取ることができるが、クラブ全体の変化については十分に検証できていない。そこで、ここでは、クラブの動態的な側面を確認するために、平成 15 年に 21 世紀ヒューマンケア研究機構が行った「都市部老人クラブの活性化方策に関する調査研究」の成果との比較を通じて、この 6 年間の間に生じつつある老人クラブ活動の変化の方向を明らかにしたい。

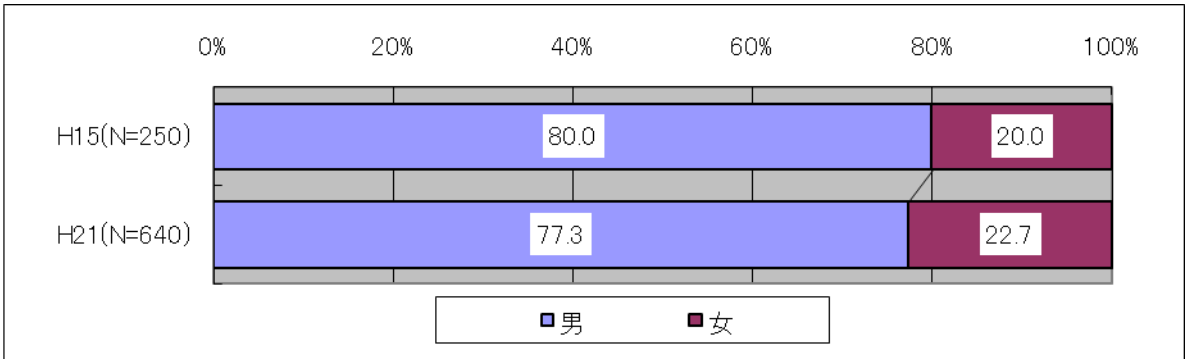
ただし、平成 15 年の実施された調査においては、調査対象の設定に違いが存在する。平成 15 年調査では、都市部の単位老人クラブの活性化が主なテーマであり、加入率の低い都市と加入率の高い都市との比較を行うとともに、単位クラブのみならず、連合会、さらには対象地域の一般高齢者を対象とした調査も実施している。これらの成果については、既に村上（2005）で結果を分析した。このような広い対象を調査したがゆえに、単位クラブ調査は、サンプル数を 500 に限定し、各市の連合会に配布を委託して行ったものである。それゆえ、今回調査とはサンプリング方法においても違いがある。

そこで、平成 15 年調査のデータにおいては、被災市町にサンプルを限定したデータを作成するとともに、今回調査のデータは、平成 15 年調査と共通の都市にサンプルを限定したデータを作成して、共通の調査項目のみの結果を比較している。ただしサンプリング方法が異なるがゆえに、結果の比較はあくまで参考とすべきものである点はお断りしておく。

第１節　会長性別

会長の性別を比較すると、若干ではあるが女性の割合が増加していることがわかる。この点は、女性の活用等を進めてきた結果が表れているのではないか。

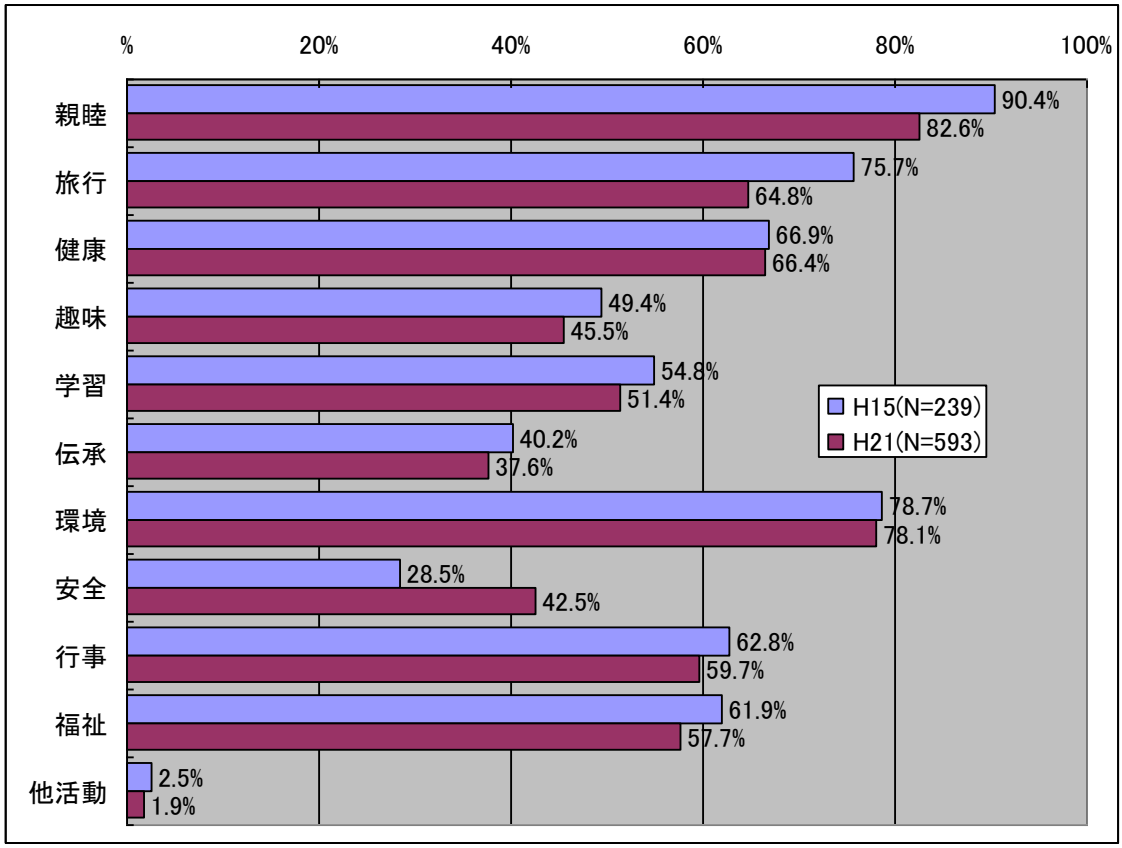
図 3-1



第 2 節　活動内容

活動内容についてみると、特に「旅行」の活動割合が 10.9 ポイントと大幅に減少していることがわかる。他方で、「安全」が 14.0 ポイントと大幅に増加している。「安全」は復興過程で力をいえれてきた活動であり、この 6 年に限ったものではない。しかしながら、近年、災害時要援護者支援システムの構築や、防災マップの作成など、地域を挙げた安全活動の展開が積極的に図られており、その成果が表れているのではないかと思われる。

図 3-2　活動内容

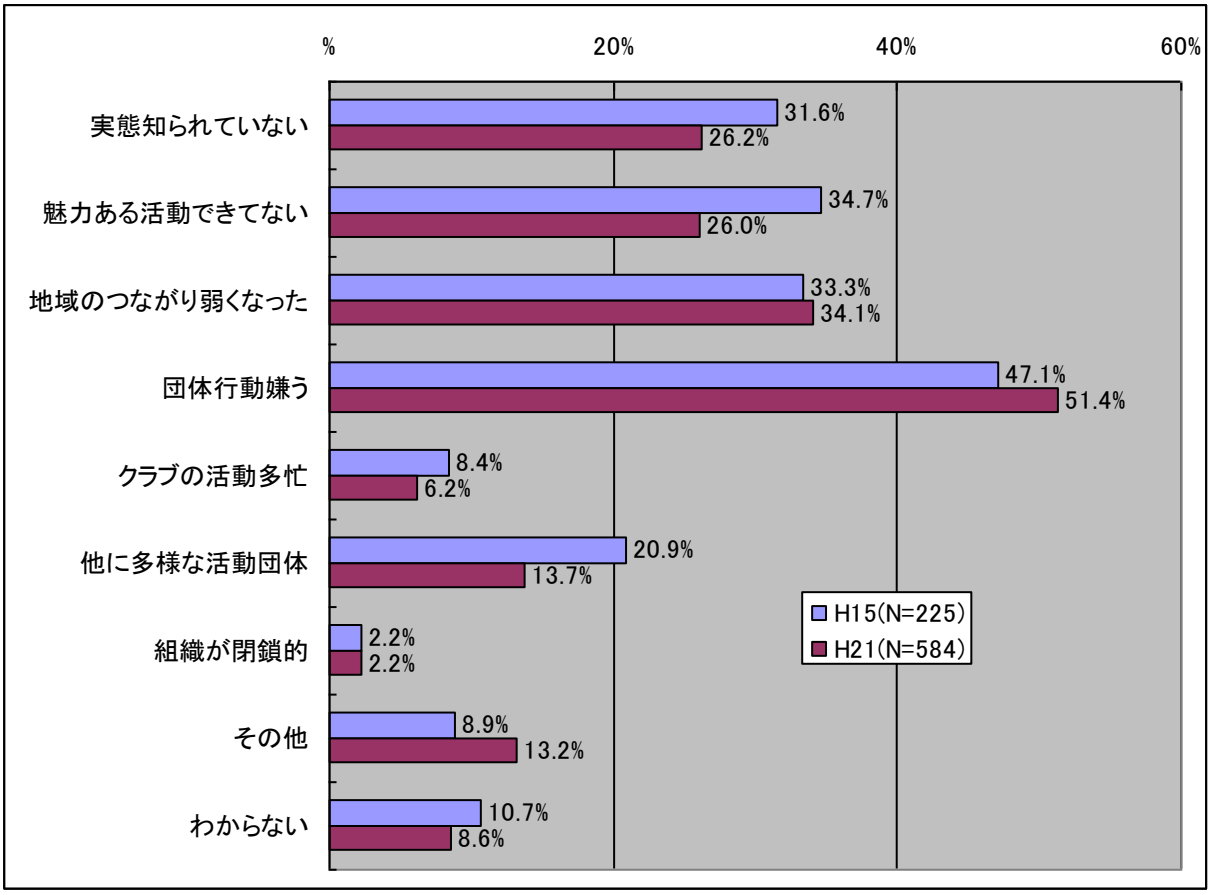


第３節　加入率低下の理由

次に加入率低下の理由を見てみると、「実態が知られていない」「魅力ある活動ができていない」「他に多様な活動団体が存在する」などが減少している。他方で、比較的はっきりと増加がみられるのが「団体行動を嫌う人が増えた」である。

この点は、老人クラブの加入対象者である、より若い高齢者の世代における変化を表している可能性がある。この６年の間に新たな世代としていわゆる「団塊の世代」が老人クラブの加入対象となってきた。そうした新たな対象の世代の性質の変化が、加入率の低下にさらに拍車をかけている可能性が見て取れるのではないか。

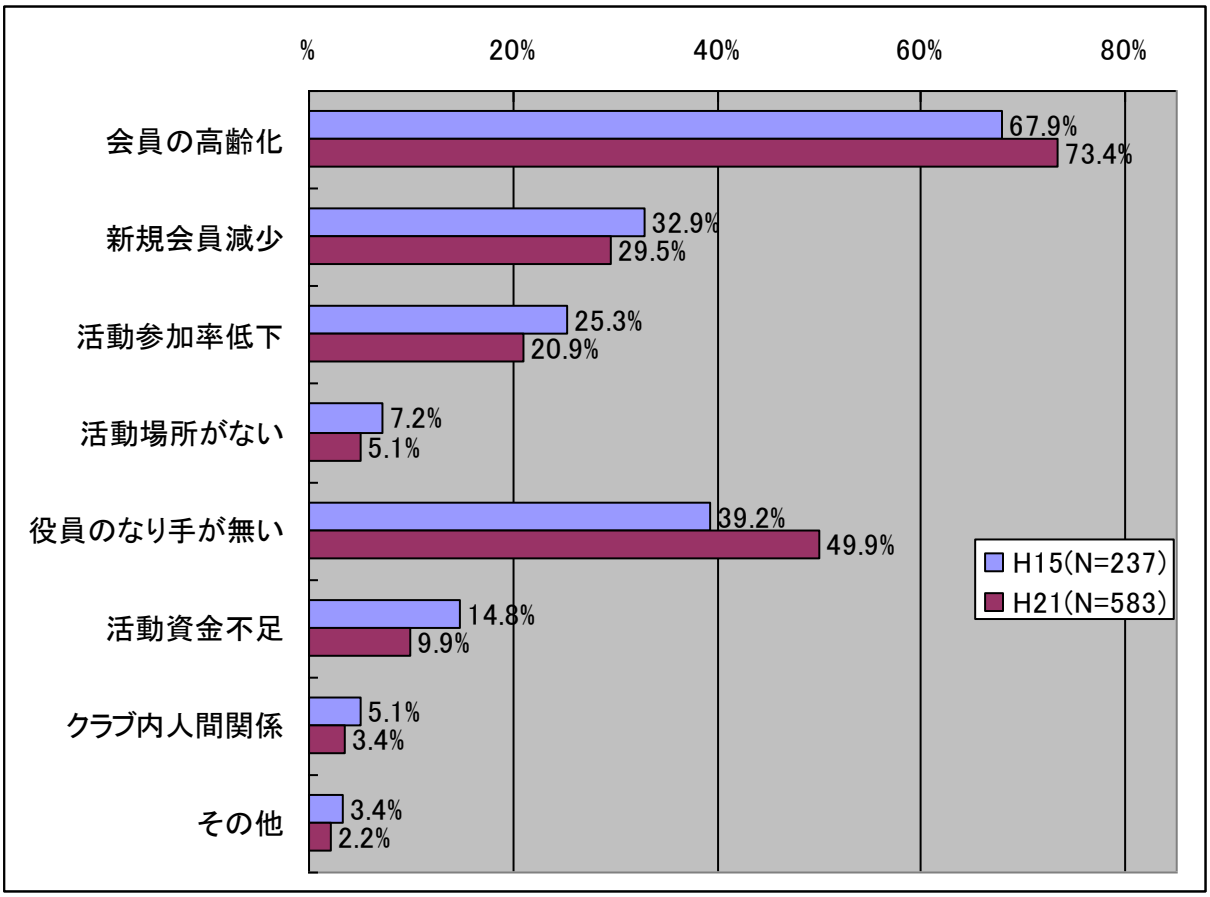
図 3-3　加入率低下の理由



第 4 節　クラブ運営上の問題

クラブ活動における問題や困難についてみてみると、「役員の成り手がいない」「会員の高齢化」が増加している。とりわけ、会員の高齢化は、より若い世代が加入していかなければ自然に進んでいく問題であり、加入率低下と合わせてこの 6 年間で高齢化の問題がより大きくなりつつあることは十分理解できる。また、そうした新たな活動の担い手が加入しなければ、役員の交代も難しく、同じメンバーが続けていかざるを得なくなるだろう。この項目の結果はより大きな問題 2 つを選択させているものであり、「新規会員の減少」などが低下しているといっても、問題が軽減されたとは限らない。むしろ、高齢化の進展やリーダー不足など、他の側面としてその影響が表れてきていると考えられるのではないだろうか。

図 3-4　クラブ運営上の問題

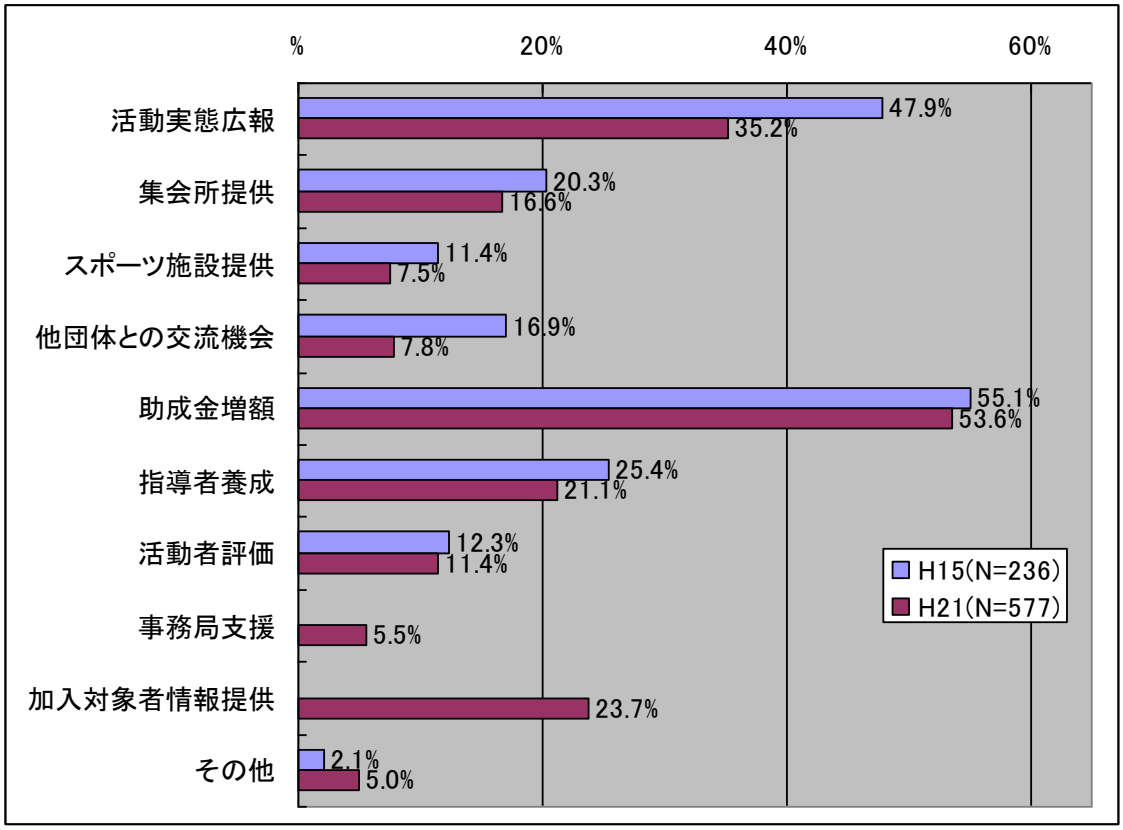


第 5 節　必要な支援

必要な支援については、質問は同一であるが、選択肢が若干異なる。今回調査では「事務局支援体制の強化」「加入対象者の情報提供」という新たな選択肢が加えられている。それゆえ、結果の解釈にはより注意を要する。

この結果で注目すべきは、新たに加えた「加入対象者の情報提供」が 23.7%と高い割合を示し、全体でも 3 番目に位置しているということである。この結果からいえることは、まず第一に、前回調査で「活動実態を広く知らせる」などの選択に含まれていたと考えられる支援のニーズがよりはっきりと取り出せた、ということである。他方で、まさに平成 15 年に制定された「個人情報の保護に関する法律」により、地域の加入対象となる高齢者の個人情報をクラブが入手することが実際により困難になり、勧誘活動に支障をきたしてきたということも示しているとも考えられる。

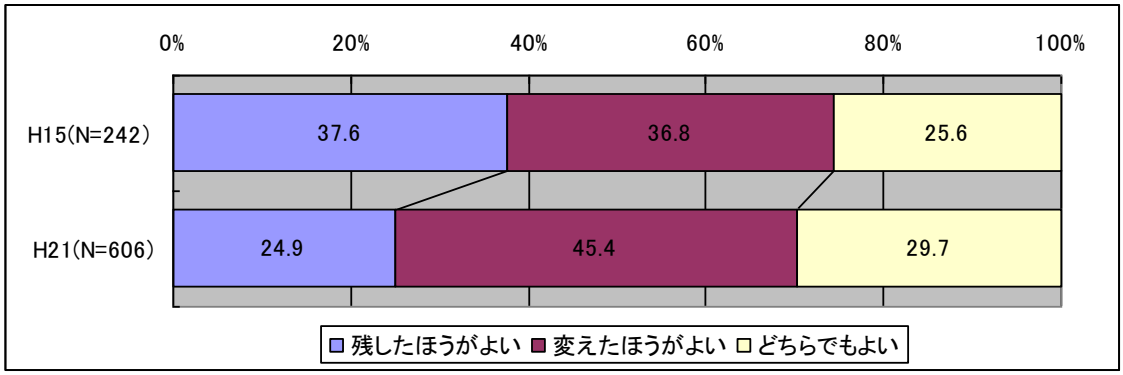
図 3-5　必要な支援



第 6 節　老人クラブという名前

「老人クラブ」という名前に対する意識の変化をみると、この 6 年に「残したほうがよい」が 12.7 ポイント低下し、「変えたほうがよい」が 8.6 ポイント増加していることがわかる。これは、この 6 年でも解答者の世代交代が生じており、その点でより若い世代における意識が表れていると考えられる。とともに、前回調査時点でも、一般高齢者の調査のほうが「変えたほうがよい」という割合が大きかったが、そうした加入対象者となる世間の意見についてクラブの側もより意識するようになってきているということも見て取れる。より若い世代の加入促進には、従来のイメージを変える新しい取り組みが必要となっているということも、クラブのリーダーがより感じるようになってきているのであろう。

図 3-6　老人クラブという名前



第 4 章　被災地における活性化の要因について

第 2 章では、復興経験において「5 年～10 年期」に活発であったクラブの特徴から、活性化の要因を検討した。ただし、そこでの「活発さ」は、クラブリーダーの主観が反映されたものであり、客観的な意味で活性化が図られているかどうかはわからない。それゆえ、活性化の要因をよりはっきりと検討するためには、より客観的な変数をによって検討を加える必要があるだろう。

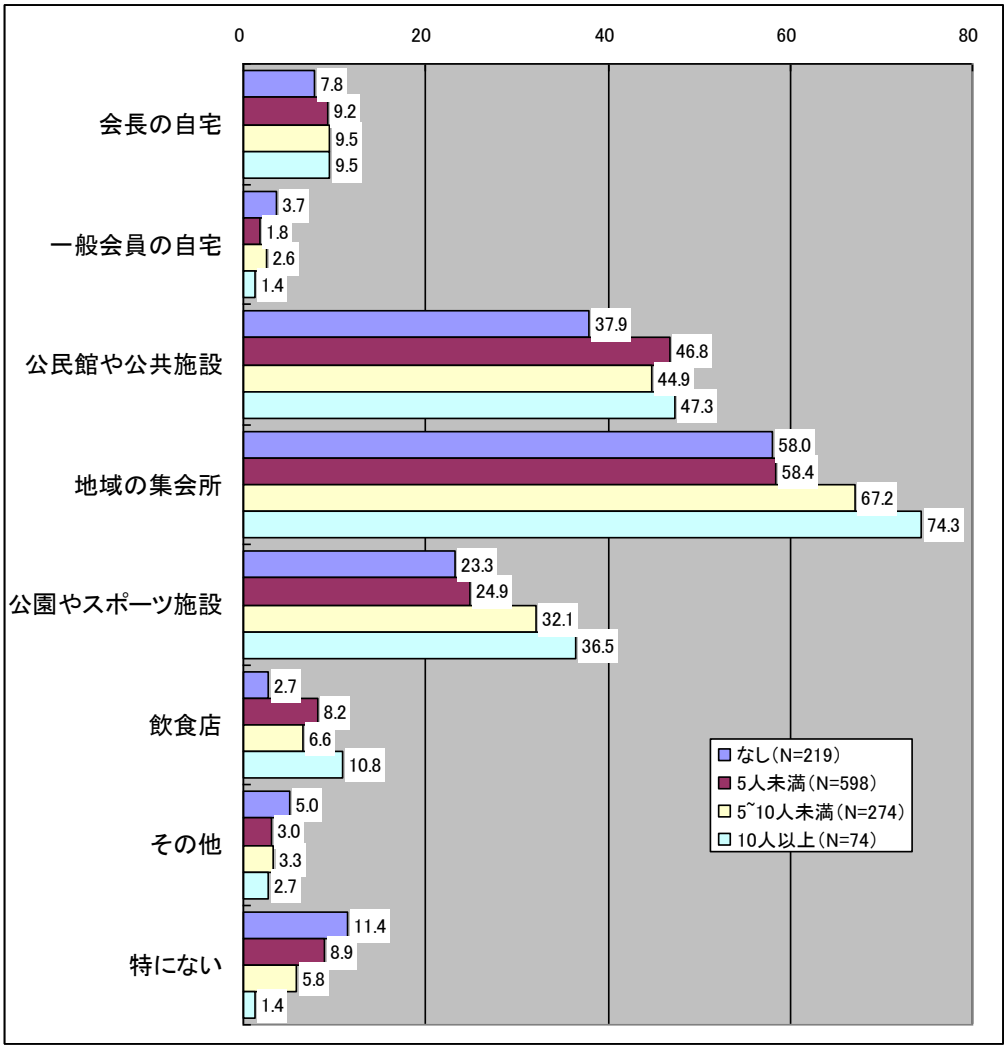
何を持って「活性化」が図られるかどうかは、明確に規定することは難しい。ここでは、新入いか委員の数に焦点を当ててみよう。加入率の低下は、多くのクラブにおいても大きな問題である。とりわけ、高齢化が急速に進展する中で、加入対象者は増加しているにもかかわらず、加入率が減少している状況は、そもそもの老人クラブの存在意義にもかかわる大きな問題の一つであるといっても過言ではない。そこで、ここでは、新入会員数を従属変数に設定して、それへの影響要因を検討することを通じて、活性化の要因を探っていこう。

第１節　活動拠点

活動拠点を見てみると、「地域の集会所」「公園やスポーツ施設」は、新規加入者が多くなるほど割合も増加する傾向がはっきりと表れている。「公民館や公共施設」でも、新規加入者が「なし」に比べると、あるほうが高い割合を示している。その一方で、「特にない」は新規加入者が増加するにつれて減少する傾向がはっきりしている。

このように、活動拠点がしっかりと存在するかどうかは、新規加入者数に影響を及ぼしている可能性が確認されうる。

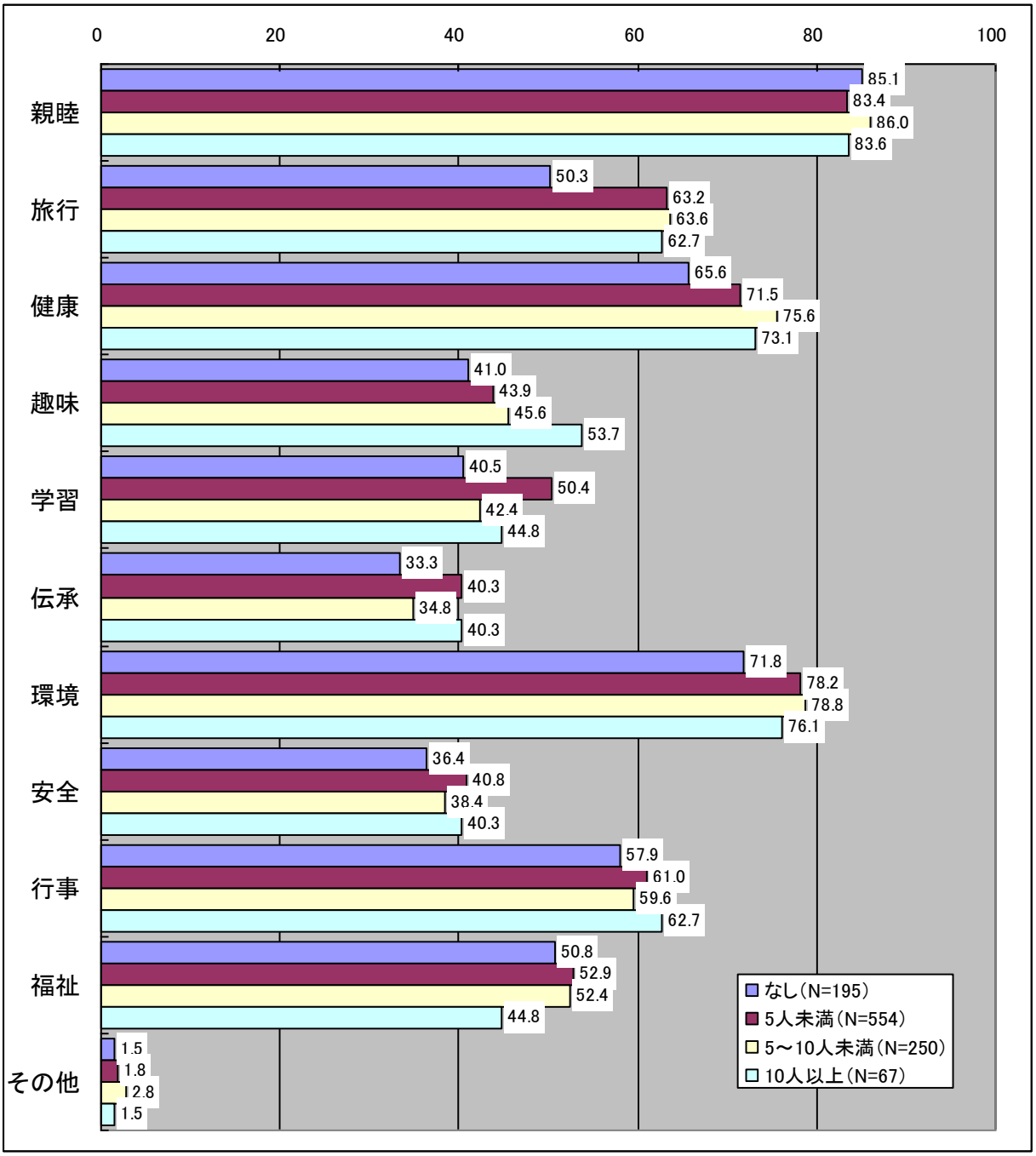
図 4-1　活動拠点



第２節　活動内容

行っている活動内容を見ると、「趣味」では新規加入者が多くなるほど活動率も増加する傾向がみられる。「旅行」「健康・スポーツ」も「ない」に比べて新規加入者のあるほうが活動率が高くなっていることがわかる。こうした楽しい活動の展開が、やはり新規加入者の獲得には重要な意味を持っているということがいえるのではないか。

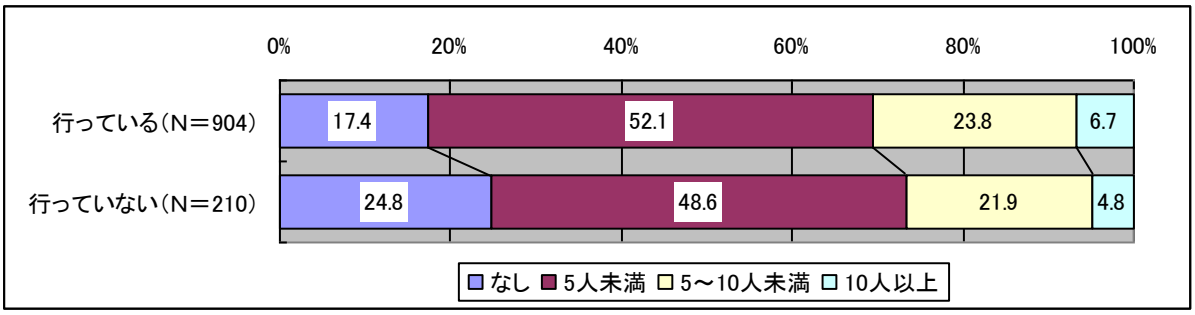
図 4-2　活動内容



第３節　見守り活動の状況

見守り活動の状況をみると、「行っている」ほうが新規加入者数が多い傾向が比較的はっきりと表れている。勧誘のきっかけにおいて、趣味などの楽しい活動の展開は重要であるが、見守り活動を行っているか否かも、新規加入者数に影響を与える要因であることが確認できる。

図 4-3　見守り活動の状況

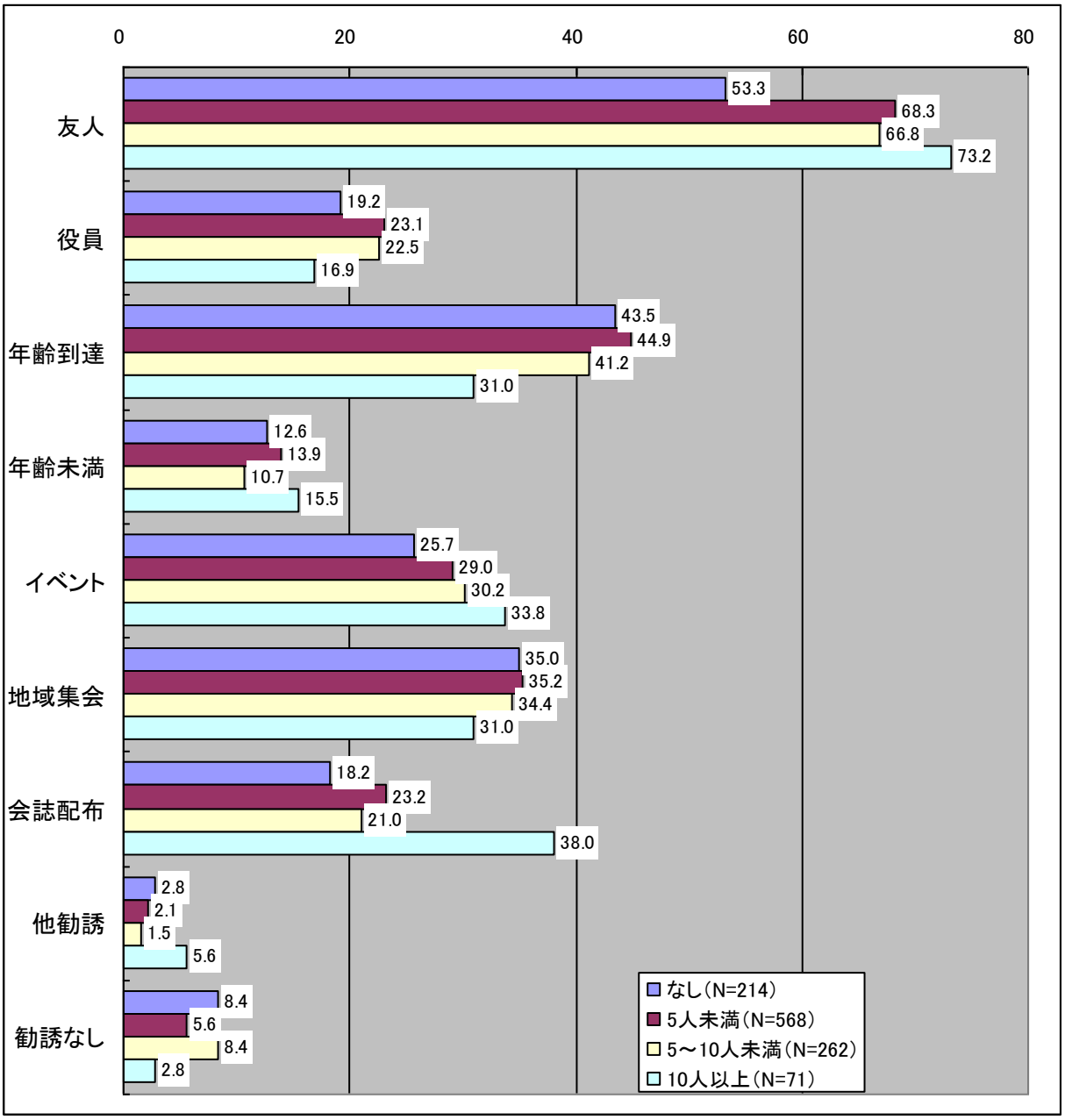


第４節　勧誘方法

新規加入者の状況により直結すると思われる勧誘の方法についてみてみると、より明確に新規加入者数と関連がみられるのは、「会員が友人を勧誘している」と「地域のイベント」である。特に「10 人以上」と大きく会員を伸ばしている場合には、「会報誌の配布」がそれ以外に比べるとはるかに大きくなっていることがわかる。また、「加入年齢になってから」の勧誘よりも「加入年齢前」からの勧誘のほうが効果がある傾向もうかがえよう。

やはり、新規加入者を獲得するには、積極的な勧誘活動は不可欠であろうが、とりわけ、会員の友人関係に加えて、地域のイベントや会報誌の配布といった形でより広く地域へとアピールすることが、勧誘の上でも大きな意味を持っているという可能性が示されているといえるのではないか。

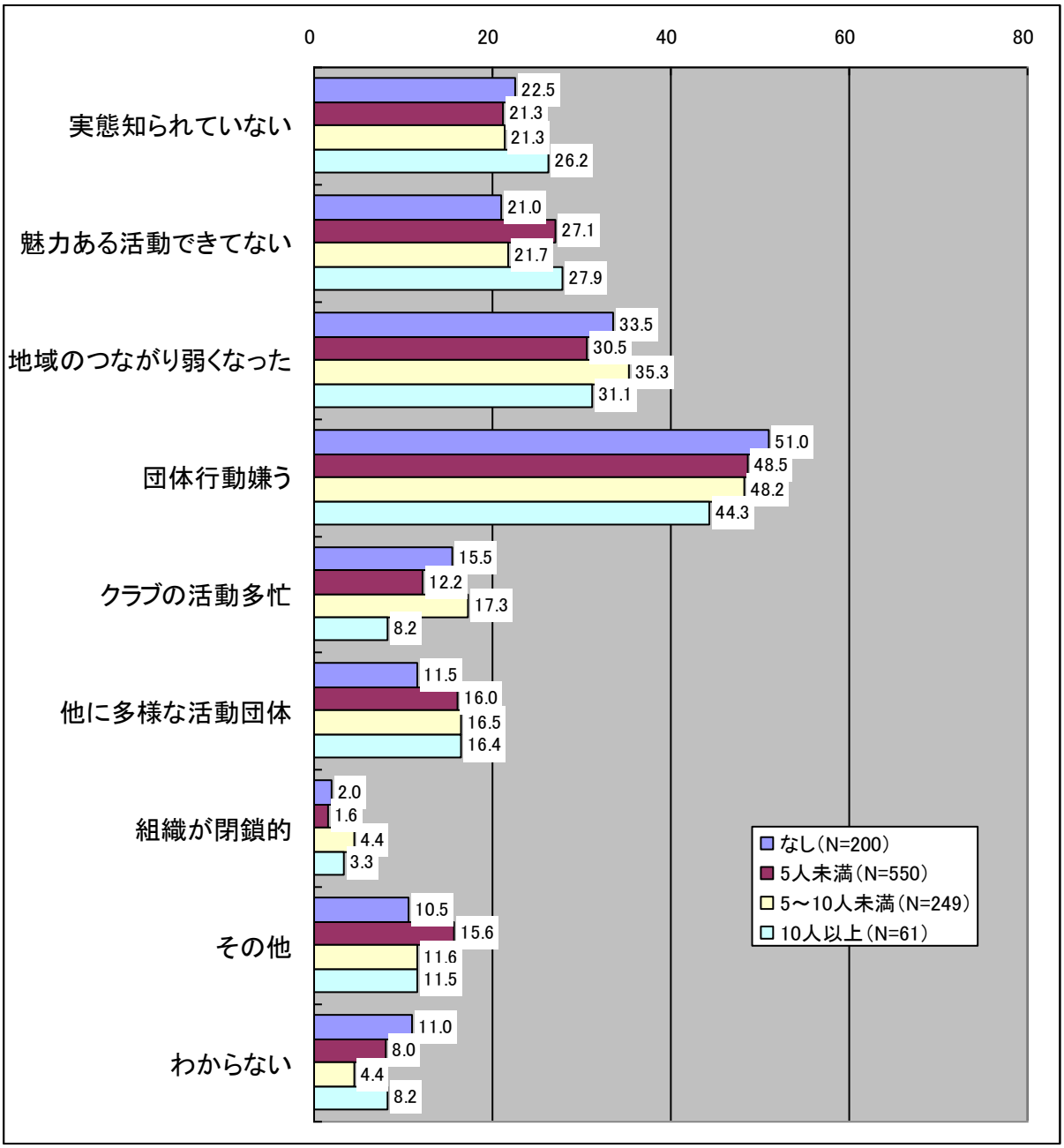
図 4-4　勧誘方法


0
20
40
60
80
友人
53.3
68.3
66.8
73.2
役員
19.2
23.1
22.5
16.9
年齢到達
43.5
44.9
41.2
31.0
年齢未満
12.6
13.9
10.7
15.5
イベント
25.7
29.0
30.2
33.8
地域集会
35.0
35.2
34.4
31.0
会誌配布
18.2
23.2
21.0
38.0
他勧誘
2.8
2.1
1.5
5.6
勧誘なし
8.4
5.6
8.4
2.8
なし（N=214）
5人未満（N=568）
5～10人未満（N=262）
10人以上（N=71）

第５節　加入率低下の理由

その逆に、加入率が低下している理由の結果を見てみると、「団体行動を嫌う人が増えた」は、新規加入者が少なくなるほど増加する傾向が比較的はっきり表れている。この点でも、団塊の世代をはじめとしたより若い新規加入対象者世代の性質の変化が影響している結果が表れているといえるのではないだろうか。

図 4-5　加入率低下の理由



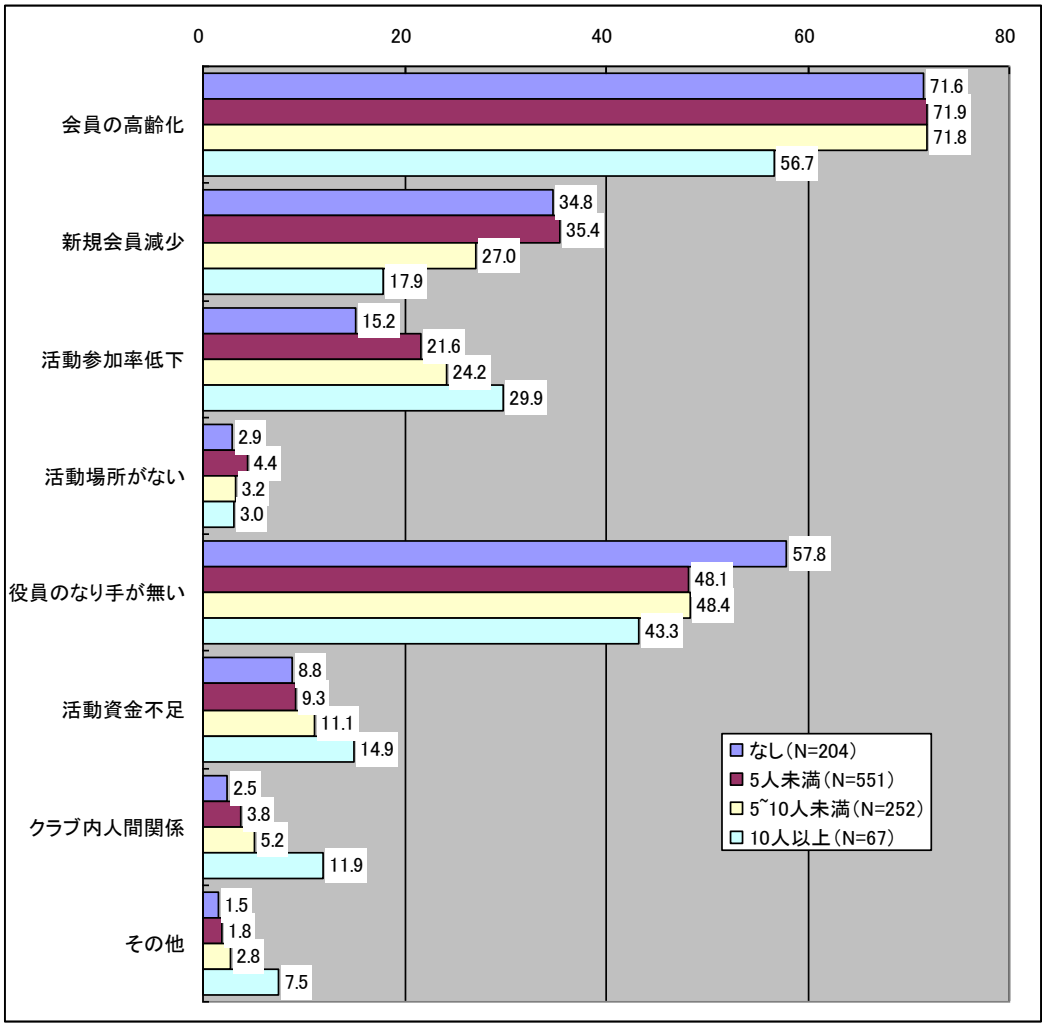
第 6 節　クラブ運営上の問題

クラブ運営上の問題を見ると、当然ながら「新規会員減少」は、加入者が多いほうが低い傾向がおおよそみられる。また、「役員の成り手がいない」も同様の傾向を示している。先にみたように、やはり加入率低下が役員問題にもかかわっているということがここでも示されているといえよう。「会員の高齢化」も、「10 人以上」の増加数の多いケースで低くなっており、同様のことが言えるだろう。

他方で、「活動参加率の低下」「活動資金の不足」「クラブ内の人間関係」では、新規加入者が多くなるほど増加する傾向がはっきりと見られる。ただし、この結果は、より深刻な問題 2 つを選んだ結果であるため、新規加入者が多いほうが問題が深刻になるというよりも、加入者減に関連する項目が深刻ではないため選択されているということにも注意しなければならない。

しかしながら、新規加入者が多くいたとしても、たとえば加入はするが積極的に活動に参加しない会員がでて来たり、クラブ内の人間関係が複雑になるなど、やはり「活性化」という問題を考えた場合に、新規加入者増加だけでは十分ではないことも他方で示しているといえるだろう。

図 4-6　クラブ運営上の問題

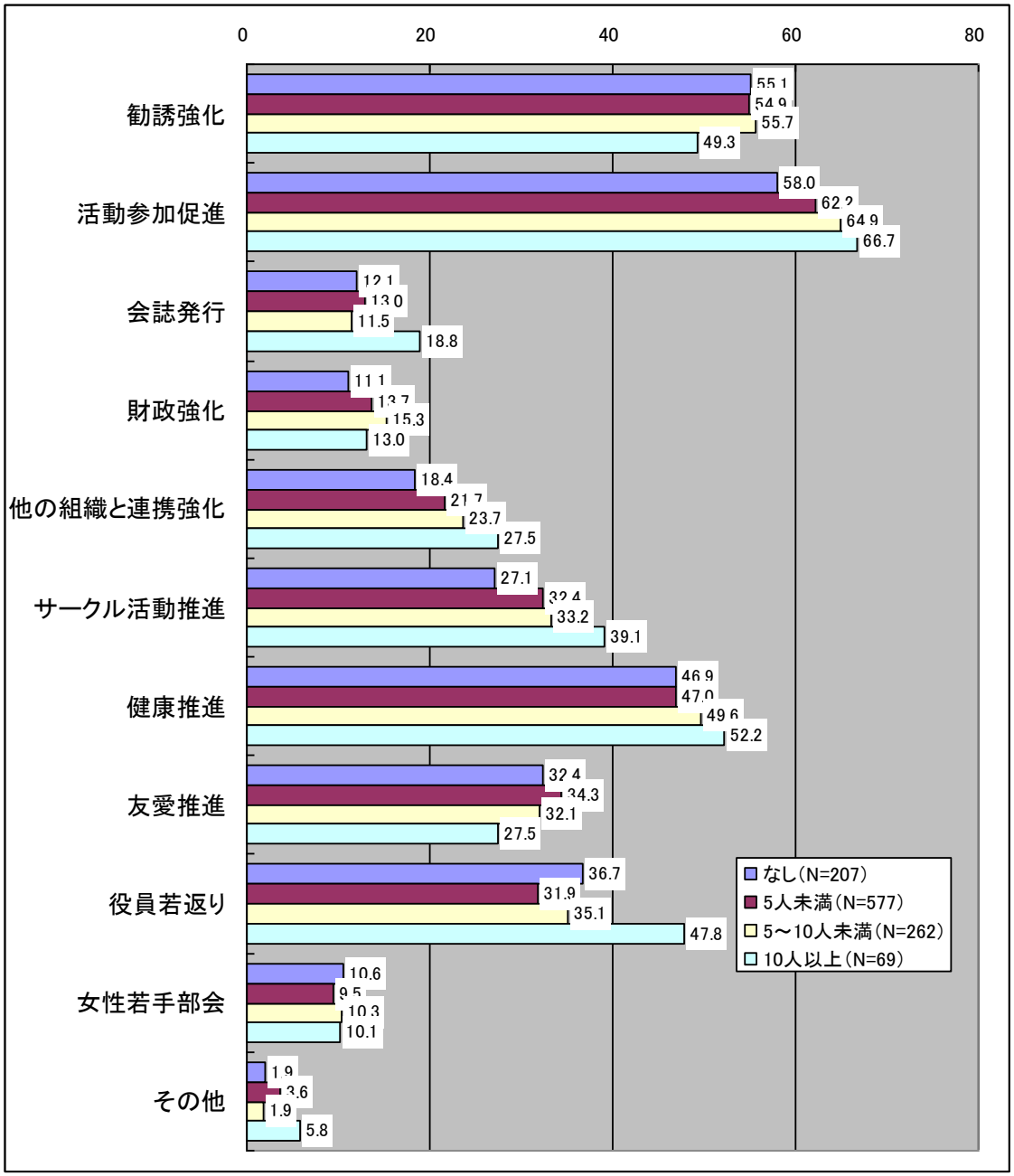


第 7 節　活性化の取り組み

次に、活性化の取り組みを見てみると、「活動参加促進」「他の組織との連携強化」「サークル活動推進」「「健康活動推進」など、多くの取り組みで、新規加入者数が多いほど割合が高くなっている。また、「会報誌の発行」「役員の若返り」は「10 人以上」の大きく会員が増加しているクラブで高くなっている。

クラブの活性化への積極的な取り組みが、加入者の増加という成果に比較的はっきりとつながっているということを示している。

図 4-7　活性化の取り組み

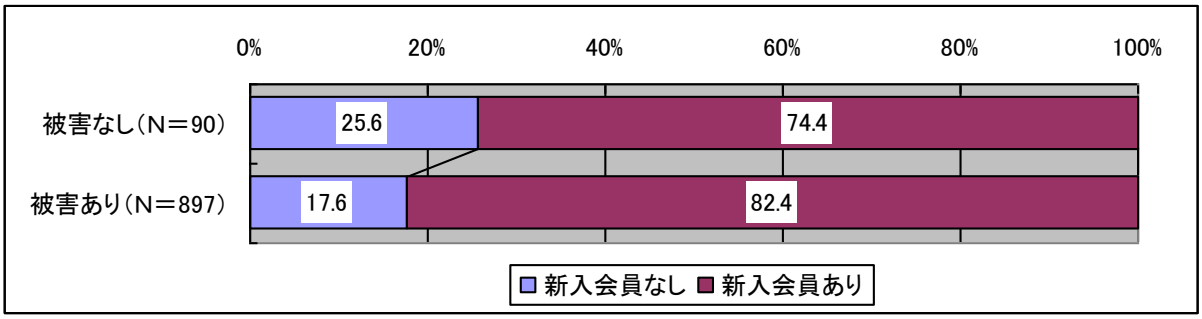


第８節　被災状況

次に、震災の影響を見てみよう。ここでは新規加入者がいるがいないかに分けて、被災状況をいてみると、震災の被害が「なし」の場合よりも「あり」のほうが、新規加入者がいる割合が大きくなっていることがわかる。

この結果は、先に分析したように、やはり被災地域においてかえって震災の教訓を生かしたクラブ運営が進められ、ひいてはそれが活性化の取り組みが積極的に行われることにつながった結果、新規会員の獲得にもよい影響を及ぼしているとみることができる。

図４－８　被災状況

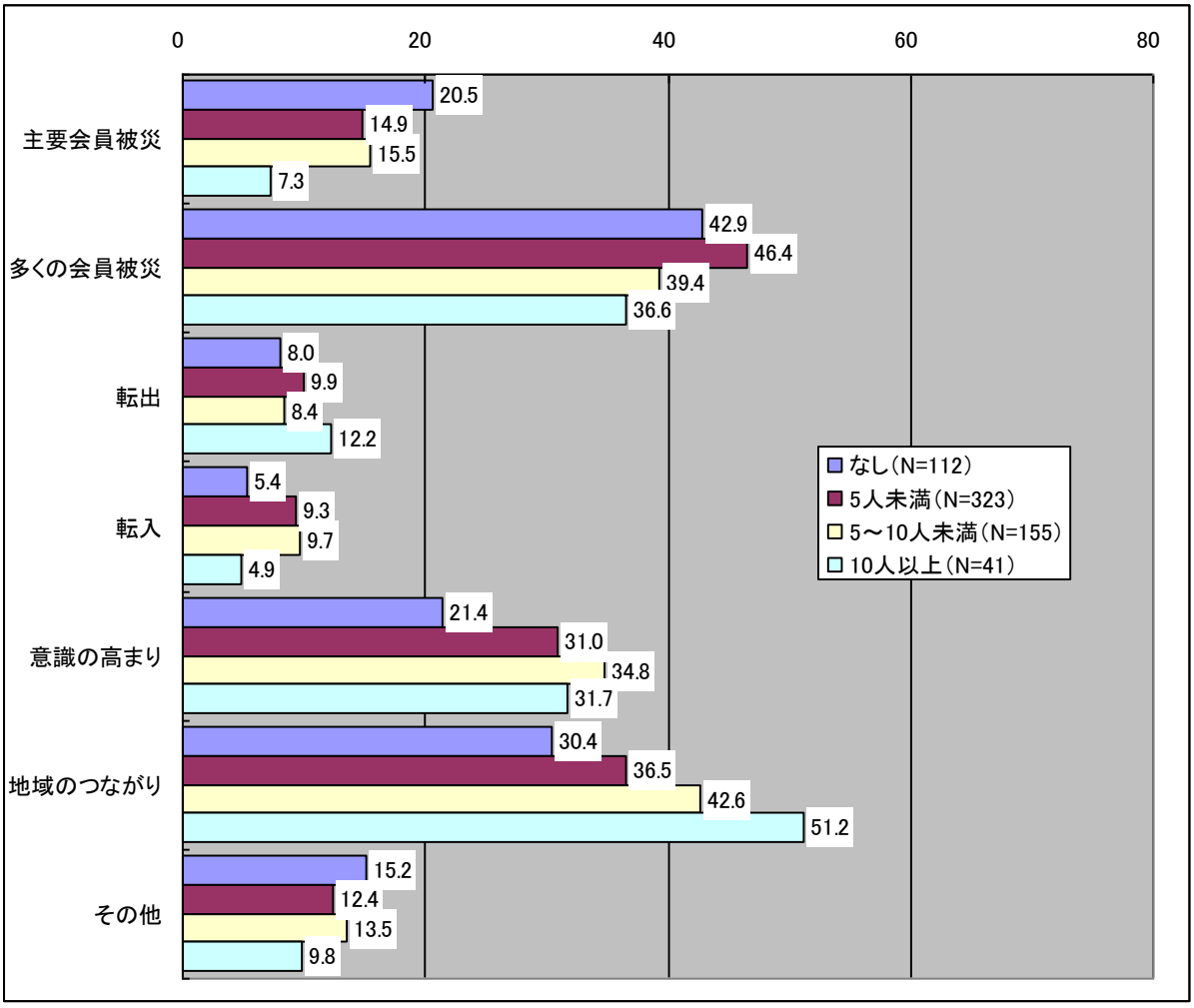


第９節　震災後の変化の理由

ただし、被災状況の影響は単純ではなく、地域によって、また具体的な被災状況と復興過程での環境などによって異なる。災前後で、クラブ活動の状況に何らかの影響を受けたクラブにその理由を尋ねた結果を見ると、「主要会員が被災」では、新入会員が少なくなるほど増加するおおよその傾向がみられ、「多くの会員が被災」もおおよそそのような傾向があることがわかる。他方で、「地域のつながり」は、新入会員が多いほど増加する傾向がみられ、「意識の高まり」もおおよその同様の傾向が確認できる。

このように、被災したとしても、主要会員が被災するなどして活発なクラブ運営に支障をきたした地域は、依然として新規加入者の獲得でもうまくいっていないという可能性があり、その意味で震災からの復興がまだ十分ではないという面を示唆する結果でもある。他方、震災をばねに地域のつながりが強まり、また連帯意識などが高まった地域では、会員獲得にもプラスに作用している。先の被災状況との関連は、そうした地域の存在によるものであると考えられるが、つまりは、活性化にはクラブ側の努力があることはもちろんだが、震災復興過程で各クラブが置かれた地域の状況が、依然として影響を与え、クラブの活性化を難しくしている可能性が依然として残されているということを見逃してはならないだろう。

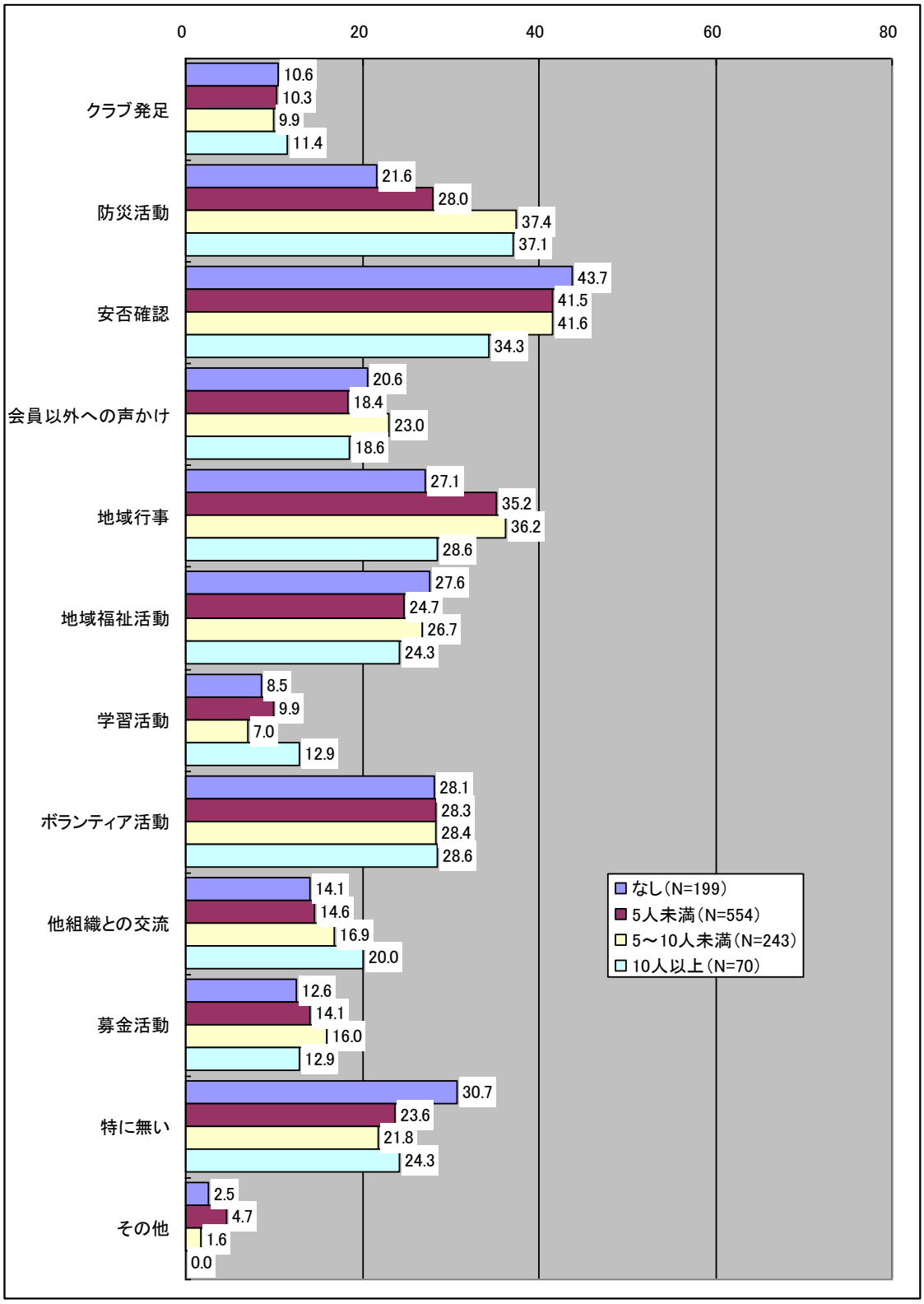
図 4－9　震災後の変化の理由



第 10 節　復興過程で活発になった活動

復興過程で活発になった活動を見ると、「防災活動」「他の組織との交流」では、新規会員数が多いほど増加するおおよその傾向が確認されうる。その一方で、「安否確認」は、新規会員が増加するほど低下している。これは、比較的若いと考えられる新規会員が多いクラブほど安否確認の必要性が低下するからかもしれない。他方で、「特にない」は、新規会員が「なし」の場合にそれ以外よりもかなり高くなっている。この点は、やはり活性化をうまく行えていたいクラブほど新規獲得が困難だということを示すとともに、これまでの復興過程で震災の影響から抜け出せずに、さまざまに活発な活動を展開できなかったクラブは、ますます困難な状況になる可能性も意味するものである。

図 4－10　復興過程で活発になった活動



第 11 節　クラブ財政との関連

クラブの財政状況と新入会員数との関連を見るために、「補助金額」（公的補助金および地域組織・社会福祉協議会などからの補助金）、「自主財源額」（会費収入・寄付・事業収入）「収入合計」（繰越金を除く）、「年会費額」「補助金割合」（収入に占める補助金の割合）「自主財源割合」（収入に占める自主財源の割合）との相関を検討した結果が表である。

「年会費額」は有意ではなかったが、それ以外はいずれも有意な結果が得られた。

まず、「補助金額」「自主財源額」「収入合計」はいずれも正の相関がみられ、これらの額が大きくなるほど新入会員が多いという傾向があることがわかった。当然ながら、活動資金が多いほうが、さまざまな活性化策にも取り組みやすいことから、こうした相関が表れることは理解できる。

では、単純に財源強化を図ればよいかというと、そうではない。「自主財源割合」においては正の相関が確認されるが、「補助金割合」では負の相関がみられるということである。つまり、補助金額が同じくらいであれば、自主財源割合が高いほうが新入会員が多く、補助金割合が高いほど新入会員が少ないということを示している。つまり、財源強化を行うにせよ、やはり自主財源強化をはかるということが、重要な意味を持つということである。

表 4－1　財政と進入会員数の相関係数

		新入会員数合計
補助金額	相関係数	.128**
	有意確率（両側）	.000
	N	1185
自主財源額	相関係数	.176**
	有意確率（両側）	.000
	N	1185
年会費額	相関係数	.023
	有意確率（両側）	.438
	N	1110
収入合計（繰越除く）	相関係数	.209**
	有意確率（両側）	.000
	N	1107
補助金割合	相関係数	-.061*
	有意確率（両側）	.038
	N	1152
自主財源割合	相関係数	.063*
	有意確率（両側）	.030
	N	1172

**　1%水準で有意

*　5%水準で有意

ただし、ここでの相関係数はいずれにせよごく弱い相関を示しているに過ぎない。「補助金の絶対額が増加すれば会員も増える」「自主財源を強化すれば会員が増える」「補助金を増やせば会員が減る」というような単純な関係があるとまでは、言えないだろう。むしろ、それぞれの変数は、「財源状況」は「クラブの運営状況」、新入会員数は「活性化状況」のいわば「代理変数」であり、どのようなクラブ運営が活性化につながるか、ということを間接的に示していると理解すべきであろう。とすれば、やはり、受け身になって周囲に依存したあり方よりも、独自の取り組みを強化する積極的なあり方が、活性化につながっている、という結果を示しているといえるのではないか。

第5章　まとめと提言

第１節　これからの老人クラブ活性化の方向性について

以上の結果を踏まえると、これからの老人クラブとその支援のあり方には、次のような方向性が考えられる。

老人クラブは、地域の見守りや防災活動、さらには地域行事などを通じて、地域の復興過程で大きな役割を果たしてきた。その意義は、再認識されるべきであり、さらに復興を進める上で、貴重な地域資源として活用していくべきである。そのためにも、老人クラブ活動の展開を支援する必要は大きい。

老人クラブは、高齢者という集団の交流を図るプラットホームとしての役割をもつとともに、他方で、社会的活動を展開する重要な基盤となっており、現に多くのクラブがいわば公益的な社会活動に積極的に取り組んでおり、その意味で、親睦や趣味といった集団内の私的な関心と、地域社会に貢献するという公的な関心の両方を見たすハイブリッドな組織である。さらには、地域を基盤にした組織としての特徴と、非営利的な活動を展開する NPO の特徴との両方を併せ持つという意味でも、ハイブリッドな組織である。この「ハイブリッド」な性質は、これからの老人クラブの方向性を考える上で重要な視点となるのではないだろうか。

それぞれの側面をどのように併せ持つか、どのようなハイブリッドが目指されるかは、（被災による影響も含めた）地域の状況にも左右される。その意味で組織の「多様化」が進められる必要があるといってよい。これからの老人クラブは、ハイブリッドな組織として、それぞれの特徴を前面に押し出す必要は大きいだろう。

どのような特徴をクラブの個性にしていくにせよ、老人クラブは地域に根ざし、自らの地域での役割を再認識し、その役割を果たす組織としての特徴付けを明確化し、いわば「可視化」することが求められるだろう。

こうした基本方向をいかに実現するかが重要な課題であるといえるだろう。

第 2 節　提言

以上を踏まえて、次の 4 つを提言する。

地域に根付いた年代層別地域型組織としての老人クラブの復興過程での役割の再評価

老人クラブが復興で果たした役割は地域によっては非常に大きかった。震災の教訓を今後とも継承し、十分に生かして、地域の安全・安心を築くという意味でも、老人クラブをはじめとした地域組織を活性化することが非常に重要であり、今後とも取り組み続けていかなければならない重要な復興課題の一つである。特に、今後さらに高齢化が進む中で、地域での高齢者の役割やその力の活用、そして世代内・世代間の協力体制を構築する必要性も大きい。その意味で高齢者という年代層の地域型組織である老人クラブが果たしうる役割は、今後ますます重要になっていくといっての過言ではない。行政・地域・クラブのそれぞれの側で、そうした課題と期待される役割を再検討し、行政・地域の側はクラブの存在を再認識・再評価して地域の活性化にうまく活用するとともに、クラブの側も、自らが地域で期待される役割を再確認して活性化を進めるべきである。

内外に開かれた「見える」クラブの実現

クラブが積極的な役割を果たすためには、地域へと開かれたクラブを実現し、また地域に存在が「見える」ことが重要である。

より開かれたクラブのあり方を実現するには、地域の他の組織との連携をいっそう深める必要がある。そうした連携の機会をクラブの側も積極的にもつとともに、行政の側も、連携の機会の設定に積極的に支援すべきである。例えば、地域でのさまざまな主体がとりくんでいる見守り活動の連携・体系化を進めることは、見まもりの実質化の促進とともに、地域組織間の連携をすすめる意味でも重要であろう。そうした地域と連携を進めることが、他方また地域に「見える」存在になるためにも重要である。世代間交流活動の展開、会報誌の発行、活動拠点の確定と地域への明示・開放など、地域との交流を進める活動を積極的に展開することは、地域の側でもクラブの存在を認識し、受け入れを促進することになる。そうした「見える」存在になるためのノウハウや効果的な展開方法について、先進的なクラブの情報を収集･整理し意見交換する機会を引き続き持つと共に、必要なクラブに積極的に支援する体制を構築することも必要であろう。そうした点からも、「老人クラブ」という名称の変更も地域へとアピールする重要なきっかけとなる可能性がある。

参画と協働のパートナーとしての老人クラブの再認識

老人クラブは、特に高齢者の参画と協働を推進するためにも、大きな役割を担いうる存在である。既に一部では進められているように、地域の公益活動の担い手として老人クラブを活用していくことは、行政の側でもクラブの側にも場合によっては大きなメリットを持ちうる。そうした参画と協働の重要なパートナーとして老人クラブを位置づけるとともに、行政のみならず、ＮＰＯやボランティア組織、さらには企業なども老人クラブと連携した活動展開を進めていくことで、さまざまな可能性が開かれうるだろう。そうした連携をすすめることを

支援していくことも重要な施策となるだろう。

ハイブリッドな組織としての老人クラブとその多様化に対する支援

老人クラブは、私的関心を満たす活動と公共的関心を満たす活動のいずれをも展開可能なハイブリッドな組織であるとともに、関心を基盤にした集団と地縁を基盤にした集団の両方の側面を持つハイブリッドな組織である。それぞれの側面をどのように併せ持つか、どのようなハイブリッドが目指されるかを、それぞれのクラブはその地域の状況や集団の特性を考慮しながら明確化しなければならない。そうした方向は老人クラブの「多様化」の推進を意味する。老人クラブのあり方を一つの方向に固定化する必要はない。その意味では、それぞれのクラブが目指す活性化の方向を後押しすることが、これからの老人クラブ支援の方向性として重要である。

とりわけ、より公共的・社会活動組織としての特徴を鮮明にする方向へと向う組織は、そうした特長を可視化する意味で、組織の NPO 法人化や、コミュニティ･ビジネスとしての活動展開を目指すことも重要である。そのための支援やノウハウの提供が求められており、それにたいして行政、とりわけ県が果たしうる役割は大きいだろう。

またそれぞれのクラブが活性化をめざす上で、クラブ運営における財政的な安定化が図られる必要は高い。そのためには、特に、会費収入・事業収入・寄付などの自主財源の強化が重要性であり、上記のコミュニティビジネスや公益活動の担い手としての活用をはじめとした、クラブにおける事業展開などへのノウハウの提供や支援も進められるべきであろう。

資料

単純集計表

質問1　クラブ所在地

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	東灘区	25	1.8	1.8	1.8
	灘区	37	2.6	2.7	4.6
	中央区	21	1.5	1.5	6.1
	兵庫区	30	2.1	2.2	8.3
	北区	28	2.0	2.1	10.4
	長田区	20	1.4	1.5	11.8
	須磨区	14	1.0	1.0	12.9
	垂水区	24	1.7	1.8	14.6
	西区	60	4.3	4.4	19.0
	尼崎市	192	13.7	14.1	33.1
	西宮市	312	22.3	22.9	56.1
	芦屋市	35	2.5	2.6	58.6
	伊丹市	43	3.1	3.2	61.8
	宝塚市	60	4.3	4.4	66.2
	川西市	40	2.9	2.9	69.1
	明石市	139	9.9	10.2	79.4
	三木市	33	2.4	2.4	81.8
	洲本市	58	4.1	4.3	86.0
	南あわじ市	96	6.9	7.1	93.1
	淡路市	94	6.7	6.9	100.0
	合計	1361	97.2	100.0	
欠損値	不明・無回答	37	2.6		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	39	2.8		
合計		1400	100.0		

質問2　クラブ設立年号

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	昭和	931	66.5	73.0	73.0
	平成	344	24.6	27.0	100.0
	合計	1275	91.1	100.0	
欠損値	不明・無回答	123	8.8		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	125	8.9		
合計		1400	100.0		

クラブ設立時期

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	震災前設立	1080	77.1	85.4	85.4
	震災後設立	185	13.2	14.6	100.0
	合計	1265	90.4	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	135	9.6		
合計		1400	100.0		

会長年齢

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
会長年齢	1362	7	99	75.24	5.683
有効なｹｰｽの数 (ﾘｽﾄごと)	1362				

質問3　会長性別

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	男	1103	78.8	81.0	81.0
	女	259	18.5	19.0	100.0
	合計	1362	97.3	100.0	
欠損値	9	36	2.6		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	38	2.7		
合計		1400	100.0		

会長就任年西暦

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	1985	1	0.1	0.1	0.1
	1986	2	0.1	0.2	0.2
	1987	4	0.3	0.3	0.5
	1988	4	0.3	0.3	0.8
	1989	11	0.8	0.8	1.7
	1990	12	0.9	0.9	2.6
	1991	12	0.9	0.9	3.5
	1992	5	0.4	0.4	3.9
	1993	19	1.4	1.4	5.3
	1994	17	1.2	1.3	6.6
	1995	27	1.9	2.1	8.7
	1996	20	1.4	1.5	10.2
	1997	24	1.7	1.8	12.0
	1998	44	3.1	3.3	15.3
	1999	32	2.3	2.4	17.8
	2000	38	2.7	2.9	20.7
	2001	29	2.1	2.2	22.9
	2002	51	3.6	3.9	26.7
	2003	73	5.2	5.5	32.3
	2004	84	6.0	6.4	38.6
	2005	98	7.0	7.4	46.1
	2006	138	9.9	10.5	56.6
	2007	128	9.1	9.7	66.3
	2008	183	13.1	13.9	80.2
	2009	261	18.6	19.8	100.0
	合計	1317	94.1	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	83	5.9		
合計		1400	100.0		

会長就任年数

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	0	261	18.6	19.8	19.8
	1	183	13.1	13.9	33.7
	2	128	9.1	9.7	43.4
	3	138	9.9	10.5	53.9
	4	98	7.0	7.4	61.4
	5	84	6.0	6.4	67.7
	6	73	5.2	5.5	73.3
	7	51	3.6	3.9	77.1
	8	29	2.1	2.2	79.3
	9	38	2.7	2.9	82.2
	10	32	2.3	2.4	84.7
	11	44	3.1	3.3	88.0
	12	24	1.7	1.8	89.8
	13	20	1.4	1.5	91.3
	14	27	1.9	2.1	93.4
	15	17	1.2	1.3	94.7
	16	19	1.4	1.4	96.1
	17	5	0.4	0.4	96.5
	18	12	0.9	0.9	97.4
	19	12	0.9	0.9	98.3
	20	11	0.8	0.8	99.2
	21	4	0.3	0.3	99.5
	22	4	0.3	0.3	99.8
	23	2	0.1	0.2	99.9
	24	1	0.1	0.1	100.0
	合計	1317	94.1	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	83	5.9		
合計		1400	100.0		

会長就任年数

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
就任年数	1317	0	24	4.79	5.093
有効なｹｰｽの数 (ﾘｽﾄごと)	1317				

質問4 会長選択方法

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	会長の指名	393	28.1	29.2	29.2
	選考委員会	169	12.1	12.5	41.7
	選挙制	181	12.9	13.4	55.2
	話し合い	545	38.9	40.5	95.6
	その他	59	4.2	4.4	100.0
	合計	1347	96.2	100.0	
欠損値	9	51	3.6		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	53	3.8		
合計		1400	100.0		

質問5 会長任期

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	1年	123	8.8	9.0	9.0
	2年	633	45.2	46.3	55.3
	3年	13	0.9	1.0	56.3
	4年以上	22	1.6	1.6	57.9
	特に規定していない	558	39.9	40.8	98.8
	その他	17	1.2	1.2	100.0
	合計	1366	97.6	100.0	
欠損値	9	32	2.3		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	34	2.4		
合計		1400	100.0		

質問6 再任の可否

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	再任できない	71	5.1	5.2	5.2
	1度だけできる	38	2.7	2.8	8.0
	2度までできる	18	1.3	1.3	9.3
	何度でもできる	541	38.6	39.6	48.9
	特に決まりはない	679	48.5	49.7	98.6
	その他	19	1.4	1.4	100.0
	合計	1366	97.6	100.0	
欠損値	9	32	2.3		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	34	2.4		
合計		1400	100.0		

会員数記述統計量

		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
質問7	会員数男性	1332	0	200.0	25.2	15.7
	会員数女性	1331	1	310.0	43.7	21.9
	会員数合計	1328	2	510.0	68.7	34.6
質問8	退会者数	1202	0	41.0	1.9	3.2
	逝去者数	1303	0	31.0	2.1	1.9
	減少会員数	1325	0	66.0	3.8	4.0
質問9	新入会員数男性合計	1187	0	19.0	1.5	1.9
	新入会員数女性合計	1187	0	23.0	2.3	2.7
	新入会員数合計	1187	0	42.0	3.7	4.0

質問10　集会回数

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
就任年数	1344	0	62	5.34	5.889
有効なｹｰｽの数 (ﾘｽﾄごと)	1344				

質問11　集会への参加率

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	4割未満	392	28.0	29.5	29.5
	4～6割	617	44.1	46.4	75.9
	6割以上	321	22.9	24.1	100.0
	合計	1330	95.0	100.0	
欠損値	9	68	4.9		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	70	5.0		
合計		1400	100.0		

質問12　会員のたまり場

	N	パーセント	ケースのパーセント
会長や役員の自宅	119	5.5%	8.8%
一般会員の自宅	27	1.2%	2.0%
公民館や公共の施設など	611	28.0%	45.3%
地域の集会所	828	38.0%	61.4%
公園やスポーツ施設など	354	16.2%	26.2%
地域の飲食店など	87	4.0%	6.4%
その他	47	2.2%	3.5%
特にない	106	4.9%	7.9%
合計	2179	100.0%	161.5%
回答者数	1349		

最も主要なたまり場

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	会長や役員の自宅	30	2.1	2.5	2.5
	一般会員の自宅	7	0.5	0.6	3.0
	公民館や公共の施設など	374	26.7	30.8	33.8
	地域の集会所	634	45.3	52.1	85.9
	公園やスポーツ施設など	43	3.1	3.5	89.5
	地域の飲食店など	11	0.8	0.9	90.4
	その他	22	1.6	1.8	92.2
	特にない	95	6.8	7.8	100.0
	合計	1216	86.9	100.0	
欠損値	0	182	13.0		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	184	13.1		
合計		1400	100.0		

質問13-1　クラブ収入データ

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
会費収入	1398	0	1095000	75452	72403
県市町などからの補助金	1398	0	1005000	93211	62567
社協や町内会などからの補助金	1398	0	570000	42338	64268
事業収入	1398	0	1296000	12719	62146
寄付金	1398	0	320000	11031	29021
その他収入	1398	0	4099792	17270	119647
繰越金	1398	-20437	2192000	133377	248589
合計	1255	0	3288000	389707	360114

質問13-3　年会費

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年会費	1305	0	8000	1308.67	750.708
有効なｹｰｽの数 (ﾘｽﾄごと)	1305				

質問14　支出項目（上位3つ）

	N	パーセント	ケースのパーセント
通信・事務のための費用	192	5.3%	15.4%
親睦のための費用	1064	29.5%	85.5%
施設利用料	103	2.9%	8.3%
サークル活動費	442	12.3%	35.5%
活動に必要な用具の整備	151	4.2%	12.1%
会報誌などの発行のための費用	74	2.1%	5.9%
行事開催費（主催）	939	26.0%	75.4%
行事参加費（外部主催）	512	14.2%	41.1%
その他	131	3.6%	10.5%
合計	3608	100.0%	289.8%
回答者数	1245		

質問15　クラブの活動内容

	N	パーセント	ケースのパーセント
親睦活動	1044	14.7%	83.3%
旅行	767	10.8%	61.2%
健康・スポーツ	882	12.4%	70.3%
趣味	535	7.5%	42.7%
学習・教養活動	565	8.0%	45.1%
伝承・世代間交流	460	6.5%	36.7%
環境・美化	951	13.4%	75.8%
安全・管理	494	7.0%	39.4%
地域行事	745	10.5%	59.4%
地域福祉	629	8.9%	50.2%
その他	28	0.4%	2.2%
合計	7100	100.0%	566.2%
回答者数	1254		

参加率最も高いもの

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	親睦活動	692	49.4	57.3	57.3
	旅行	149	10.6	12.3	69.6
	健康・スポーツ	137	9.8	11.3	81.0
	趣味	42	3.0	3.5	84.4
	学習・教養活動	29	2.1	2.4	86.8
	伝承・世代間交流	4	0.3	0.3	87.2
	環境・美化	91	6.5	7.5	94.7
	安全・管理	7	0.5	0.6	95.3
	地域行事	33	2.4	2.7	98.0
	地域福祉	21	1.5	1.7	99.8
	その他	3	0.2	0.2	100.0
	合計	1208	86.3	100.0	
欠損値	99	190	13.6		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	192	13.7		
合計		1400	100.0		

参加率最も低いもの

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	親睦活動	24	1.7	2.1	2.1
	旅行	95	6.8	8.3	10.4
	健康・スポーツ	129	9.2	11.3	21.7
	趣味	95	6.8	8.3	30.1
	学習・教養活動	113	8.1	9.9	40.0
	伝承・世代間交流	112	8.0	9.8	49.8
	環境・美化	110	7.9	9.6	59.4
	安全・管理	140	10.0	12.3	71.7
	地域行事	148	10.6	13.0	84.7
	地域福祉	171	12.2	15.0	99.6
	その他	4	0.3	0.4	100.0
	合計	1141	81.5	100.0	
欠損値	99	257	18.4		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	259	18.5		
合計		1400	100.0		

質問16-1　見守り活動状況

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	行っている	1066	76.1	81.2	81.2
	行っていない	247	17.6	18.8	100.0
	合計	1313	93.8	100.0	
欠損値	9	85	6.1		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	87	6.2		
合計		1400	100.0		

質問16-2　主な見守り方法

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	戸別訪問（対面）	442	31.6	44.7	44.7
	戸別訪問（インターホン）	42	3.0	4.2	48.9
	日常的な声かけ	442	31.6	44.7	93.6
	電話	37	2.6	3.7	97.4
	その他	26	1.9	2.6	100.0
	合計	989	70.6	100.0	
欠損値	9	409	29.2		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	411	29.4		
合計		1400	100.0		

質問16-3　見守りの担い手

	N	パーセント	ケースのパーセント
会長・役員	856	48.6%	80.9%
女性部など一部会員	379	21.5%	35.8%
友愛訪問担当	164	9.3%	15.5%
会員有志	302	17.1%	28.5%
輪番制	15	0.9%	1.4%
その他	45	2.6%	4.3%
合計	1761	100.0%	166.4%

回答者数　1058

質問16-4　見守り頻度

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	週1回以上	109	7.8	10.5	10.5
	月2，3回	213	15.2	20.5	31.1
	月1回	306	21.9	29.5	60.6
	2，3ヶ月1回	75	5.4	7.2	67.8
	年数回	175	12.5	16.9	84.7
	不定期	146	10.4	14.1	98.7
	その他	13	0.9	1.3	100.0
	合計	1037	74.1	100.0	
欠損値	9	361	25.8		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	363	25.9		
合計		1400	100.0		

質問16-5　見守り連携機関

	N	パーセント	ケースのパーセント
特になし	282	14.5%	26.9%
町内会・自治会・管理組合	462	23.8%	44.1%
街づくり協議会	75	3.9%	7.2%
他のクラブ	101	5.2%	9.6%
社協	239	12.3%	22.8%
民生委員	561	28.9%	53.6%
市・区担当課	30	1.5%	2.9%
ボランティア	105	5.4%	10.0%
NPO	14	0.7%	1.3%
介護保険事業者	31	1.6%	3.0%
LSA･SCS	21	1.1%	2.0%
その他	19	1.0%	1.8%
合計	1940	100.0%	185.3%
回答者数	1047		

質問17　勧誘方法

	N	パーセント	ケースのパーセント
会員が友人を	852	27.7%	65.0%
役員が複数で訪問	273	8.9%	20.8%
加入年齢になった高齢者	558	18.1%	42.6%
加入年齢以前から	167	5.4%	12.7%
地域行事やイベントで	376	12.2%	28.7%
町内会･自治会の集まりで	444	14.4%	33.9%
会報誌やチラシ配布･広報	293	9.5%	22.4%
その他	29	0.9%	2.2%
特別なことは行っていない	88	2.9%	6.7%
合計	3080	100.0%	235.1%
回答者数	1310		

主な勧誘方法

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	会員が友人を	466	33.3	38.8	38.8
	役員が複数で訪問	137	9.8	11.4	50.2
	加入年齢になった高齢者	256	18.3	21.3	71.5
	加入年齢以前から	21	1.5	1.7	73.3
	地域行事やイベントで	89	6.4	7.4	80.7
	町内会･自治会の集まりで	107	7.6	8.9	89.6
	会報誌やチラシ配布･広報	58	4.1	4.8	94.4
	その他	14	1.0	1.2	95.6
	特別なことは行っていない	53	3.8	4.4	100.0
	合計	1201	85.8	100.0	
欠損値	0	197	14.1		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	199	14.2		
合計		1400	100.0		

質問18　加入率低下の理由

	N	パーセント	ケースのパーセント
実態知られていない	268	12.1%	21.7%
魅力ある活動できてない	301	13.6%	24.4%
地域のつながり弱くなった	396	17.9%	32.1%
団体行動嫌う	598	27.0%	48.4%
クラブの活動多忙	181	8.2%	14.7%
他に多様な活動団体	182	8.2%	14.7%
組織が閉鎖的	31	1.4%	2.5%
その他	159	7.2%	12.9%
わからない	97	4.4%	7.9%
合計	2213	100.0%	179.2%
回答者数	1235		

質問19　老人クラブという名前

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	残す	335	23.9	25.7	25.7
	変える	569	40.6	43.7	69.5
	どちらでもよい	397	28.4	30.5	100.0
	合計	1301	92.9	100.0	
欠損値	9	97	6.9		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	99	7.1		
合計		1400	100.0		

質問20　運営上の困難

	N	パーセント	ケースのパーセント
会員の高齢化	882	36.1%	70.1%
新規会員減少	394	16.1%	31.3%
活動参加率低下	268	11.0%	21.3%
活動場所がない	50	2.0%	4.0%
役員のなり手が無い	630	25.8%	50.0%
活動資金不足	132	5.4%	10.5%
クラブ内人間関係	59	2.4%	4.7%
その他	27	1.1%	2.1%
合計	2442	100.0%	194.0%

1259

質問21　必要な支援

	N	パーセント	ケースのパーセント
活動実態広報	434	18.9%	35.3%
集会所提供	175	7.6%	14.3%
スポーツ施設提供	121	5.3%	9.9%
他団体との交流機会	83	3.6%	6.8%
助成金増額	714	31.1%	58.1%
指導者養成	275	12.0%	22.4%
活動者評価	119	5.2%	9.7%
事務局支援	79	3.4%	6.4%
加入対象者情報提供	236	10.3%	19.2%
その他	59	2.6%	4.8%
合計	2295	100.0%	186.9%

1228

質問22　活性化の取り組み

	N	パーセント	ケースのパーセント
勧誘強化	690	16.5%	53.2%
活動参加促進	792	18.9%	61.1%
会誌発行	157	3.7%	12.1%
財政強化	188	4.5%	14.5%
他の組織と連携強化	285	6.8%	22.0%
サークル活動推進	403	9.6%	31.1%
健康推進	618	14.8%	47.6%
友愛推進	434	10.4%	33.5%
役員若返り	448	10.7%	34.5%
女性若手部会	135	3.2%	10.4%
その他	37	0.9%	2.9%
合計	4187	100.0%	322.8%

質問23　人的被害

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	1	721	51.5	61.6	61.6
	2	162	11.6	13.8	75.4
	3	103	7.4	8.8	84.2
	4	67	4.8	5.7	89.9
	5	118	8.4	10.1	100.0
	合計	1171	83.6	100.0	
欠損値	9	227	16.2		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	229	16.4		
合計		1400	100.0		

住宅被害

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	1	185	13.2	14.9	14.9
	2	306	21.9	24.7	39.7
	3	276	19.7	22.3	62.0
	4	201	14.4	16.2	78.2
	5	270	19.3	21.8	100.0
	合計	1238	88.4	100.0	
欠損値	9	160	11.4		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	162	11.6		
合計		1400	100.0		

ライフライン被害

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	1	233	16.6	19.6	19.6
	2	214	15.3	18.0	37.6
	3	208	14.9	17.5	55.0
	4	174	12.4	14.6	69.7
	5	361	25.8	30.3	100.0
	合計	1190	85.0	100.0	
欠損値	9	208	14.9		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	210	15.0		
合計		1400	100.0		

被害合計

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	3	117	8.4	10.4	10.4
	4	94	6.7	8.3	18.7
	5	132	9.4	11.7	30.4
	6	116	8.3	10.3	40.7
	7	111	7.9	9.8	50.5
	8	81	5.8	7.2	57.7
	9	106	7.6	9.4	67.1
	10	79	5.6	7.0	74.0
	11	71	5.1	6.3	80.3
	12	58	4.1	5.1	85.5
	13	39	2.8	3.5	88.9
	14	31	2.2	2.7	91.7
	15	94	6.7	8.3	100.0
	合計	1129	80.6	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	271	19.4		
合計		1400	100.0		

質問24　被災経験会員状況

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	ほとんど	776	55.4	62.3	62.3
	多い	316	22.6	25.4	87.6
	少なくなってきた	45	3.2	3.6	91.3
	ほとんどいない	37	2.6	3.0	94.2
	わからない	72	5.1	5.8	100.0
	合計	1246	89.0	100.0	
欠損値	9	152	10.9		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	154	11.0		
合計		1400	100.0		

質問25　震災～1年ごろ

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	多くの会員	165	11.8	18.9	18.9
	一部の会員	151	10.8	17.3	36.2
	活発でない	137	9.8	15.7	51.9
	休止状態	128	9.1	14.7	66.6
	消滅	4	0.3	0.5	67.1
	発足	17	1.2	1.9	69.0
	まだなかった	102	7.3	11.7	80.7
	わからない	168	12.0	19.3	100.0
	合計	872	62.3	100.0	
欠損値	不明・無回答	526	37.6		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	528	37.7		
合計		1400	100.0		

震災1～5年

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	多くの会員	78	5.6	9.9	9.9
	一部の会員	205	14.6	25.9	35.8
	活発でない	197	14.1	24.9	60.7
	休止状態	31	2.2	3.9	64.6
	消滅	6	0.4	0.8	65.4
	発足	40	2.9	5.1	70.4
	まだなかった	68	4.9	8.6	79.0
	わからない	166	11.9	21.0	100.0
	合計	791	56.5	100.0	
欠損値	不明・無回答	607	43.4		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	609	43.5		
合計		1400	100.0		

震災5年～10年

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	多くの会員	85	6.1	12.5	12.5
	一部の会員	173	12.4	25.5	38.1
	活発でない	163	11.6	24.0	62.1
	休止状態	25	1.8	3.7	65.8
	消滅	0	0.0	0.0	0.0
	発足	41	2.9	6.0	71.8
	まだなかった	33	2.4	4.9	76.7
	わからない	158	11.3	23.3	100.0
	合計	678	48.4	100.0	
欠損値	不明・無回答	720	51.4		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	722	51.6		
合計		1400	100.0		

震災10年～15年

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	多くの会員	148	10.6	23.1	23.1
	一部の会員	128	9.1	19.9	43.0
	活発でない	118	8.4	18.4	61.4
	休止状態	50	3.6	7.8	69.2
	消滅	2	0.1	0.3	69.5
	発足	30	2.1	4.7	74.1
	まだなかった	0	0.0	0.0	0.0
	わからない	166	11.9	25.9	100.0
	合計	642	45.9	100.0	
欠損値	不明・無回答	756	54.0		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	758	54.1		
合計		1400	100.0		

質問26-1　震災の影響

		度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	有効ﾊﾟｰｾﾝﾄ	累積ﾊﾟｰｾﾝﾄ
有効	活発になった	115	8.2	9.6	9.6
	あまり影響はなかった	608	43.4	50.8	60.4
	低調になった	118	8.4	9.9	70.3
	存続危機	41	2.9	3.4	73.7
	震災後発足	110	7.9	9.2	82.9
	わからない	205	14.6	17.1	100.0
	合計	1197	85.5	100.0	
欠損値	不明・無回答	201	14.4		
	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.1		
	合計	203	14.5		
合計		1400	100.0		

質問26-2　影響の理由

	N	パーセント	ケースのパーセント
主要会員被災	113	10.0%	15.7%
多くの会員被災	314	27.7%	43.5%
転出	69	6.1%	9.6%
転入	63	5.6%	8.7%
意識の高まり	212	18.7%	29.4%
地域のつながり	268	23.7%	37.1%
その他	94	8.3%	13.0%
合計	1133	100.0%	156.9%
回答者数	722		

質問27　震災後活発になった活動

	N	パーセント	ケースのパーセント
クラブ発足	120	3.8%	9.7%
防災活動	361	11.5%	29.2%
安否確認	511	16.3%	41.4%
会員以外への声かけ	251	8.0%	20.3%
地域行事	407	13.0%	33.0%
地域福祉活動	322	10.3%	26.1%
学習活動	110	3.5%	8.9%
ボランティア活動	345	11.0%	27.9%
他組織との交流	192	6.1%	15.5%
募金活動	172	5.5%	13.9%
特に無い	307	9.8%	24.9%
その他	36	1.1%	2.9%
合計	3134	100.0%	253.8%
回答者数	1235		

（財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
共 生 社 会 づくり政 策 研 究 群

被災地における老人クラブの復興経験と現状に関するアンケート

《ご協力のお願い》

（財）ひょうご震災記念 21 世紀研究機構では、震災復興における課題や高齢社会に関する様々な問題について調査研究を行っております。この度、「被災地における老人クラブの復興経験と現状に関するアンケート」を行うこととなりました。老人クラブの現在の組織や活動の状況、活性化のための取組、震災からの 15 年の復興経験などについて被災地の単位老人クラブ関係者の方々に伺い、被災地の復興や今後の老人クラブの活性化に役立てる基礎資料とさせていただきます。

なお、本アンケートは、兵庫県老人クラブ連合会、神戸市老人クラブ連合会および被災市区老人クラブ連合会のご協力を得て、各単位老人クラブの会長あるいは役員に対してお渡ししています。また、このアンケートには名前を記入していただく必要はありません。ご回答いただいた内容はすべてコンピューターで機械的に処理いたしますので、個々の回答内容が外部に出ることは決してありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、以上の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、この調査についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

〒651-0073
神 戸 市 中 央 区 脇 浜 海 岸 通 1 － 5 － 2
人 と 防 災 未 来 セ ン タ ー ・ ひ と 未 来 館 6 階
（ 財 ） ひ ょ う ご 震 災 記 念 **21** 世 紀 研 究 機 構
共 生 社 会 づ く り 政 策 研 究 群
担 当 ： 村 上 ・ 東 野
電 話 ： 0 7 8 － 2 6 2 － 5 5 7 8
F A X ： 0 7 8 － 2 6 2 － 5 5 9 3
E-Mail：murakamit@dri.ne.jp

☆回答に際してのお願い

- 単位老人クラブ会長又は役員がお答えください。
- 平成 21 年 9 月 1 日現在でお答えください。
- 質問は具体的な人数や金額を記入する**記述式**の部分と、選択肢から選ぶ**選択式**の部分、および**自由記述部分**とがございます。それぞれの質問をよく読み、お答えください。

各連合会が指定する日もしくは 10 月 16 日（金）までにご回答願います

質問１　クラブの所在地を、<u>ひとつ</u>選んで〇をつけてください。

1. 神戸市東灘区	6. 神戸市長田区	11. 西宮市	16. 明石市
2. 神戸市灘区	7. 神戸市須磨区	12. 芦屋市	17. 三木市
3. 神戸市中央区	8. 神戸市垂水区	13. 伊丹市	18. 洲本市
4. 神戸市兵庫区	9. 神戸市西区	14. 宝塚市	19. 南あわじ市
5. 神戸市北区	10. 尼崎市	15. 川西市	20. 淡路市

質問２　クラブの設立は、いつ頃ですか。年号を選んで〇をつけ、設立年を記入してください。

1. 昭和　　2. 平成　　_____年ごろ

質問３　現在のクラブの会長の年齢、性別、就任時期についてそれぞれ記入してください。

①年齢　_____歳　　②性別　1. 男　2. 女　　③就任時期　1. 昭和　2. 平成　_____年

質問４　会長はどのように選ばれていますか。当てはまるもの<u>ひとつに</u>〇をつけてください。

1. 会長による後継指名
2. 選考委員会
3. 選挙
4. 話し合い
5. その他
（具体的に　　）

質問５　会長に任期はありますか。当てはまるもの<u>ひとつに</u>〇をつけてください。

1. １年
2. ２年
3. ３年
4. ４年以上（　　年）
5. 特に規定していない
6. その他
（具体的に　　）

質問６　会長は再任することが可能ですか。当てはまるもの<u>ひとつに</u>〇をつけてください。

1. 再任はできない
2. １度だけ再任できる
3. ２度まで再任できる
4. 何度でも再任できる
5. 特に決まりはない
6. その他
（具体的に　　）

質問７　今年度当初の会員数についてお聞きします。男女別にそれぞれ会員数を記入してください。

①男性　（　　）人　　②女性　（　　）人

質問８　昨年度１年間の退会者および逝去者について、下の欄にそれぞれ人数を記入してください。

①退会者　（　　）人　　②逝去者　（　　）人

質問９　昨年度１年間の新入会員についてお聞きします。下の表に、**性・年齢別**に人数を記入してください。いなかった場合は、「新入会員なし」に〇をつけてください。

	男	女
60歳未満		
60～64歳		
65～69歳		

	男	女
70～74歳		
75～79歳		
80歳以上		
新入会員なし		

質問 10　昨年度に、全会員を対象とした総会、例会等の集会は何回行いましたか。下の欄にその回数を記入してください。

＿＿＿＿＿　回

質問 11　その集会への会員の参加状況は、平均して何割程度でしたか。当てはまるもの**ひとつに**〇をつけてください。

1. 概ね４割未満　　2. 概ね４割以上６割未満　　3. 概ね６割以上

質問 12　◇会員のたまり場のような場所はありますか。**いくつでも**選んで〇をつけてください。
◇その中で主な場所**ひとつ**の番号を下の欄に記入してください。

1. 会長や役員の自宅
2. 一般会員の自宅
3. 公民館や公共の施設など
4. 地域の集会所
5. 公園やスポーツ施設など
6. 地域の飲食店など
7. その他
（具体的に　　）
8. 特にない

主な場所（　　）

質問 13-1 昨年度のクラブの収入決算はどうでしたか。次の表に記入してください。

費目	金額（円）
会費収入	
県･市区の助成金（老人クラブ助成金）	
社協や町内会等の補助金･助成金	
事業収入	
寄付金	
その他の収入	
繰越金収入	
合計	

質問 13-2　事業収入があるクラブにのみお聞きします。その事業の具体的な内容について記入してください。

（　　）

質問 13－3　クラブの年会費は一人いくらですか。金額を記入してください。なお、会費をとっていない場合は０（ゼロ）を記入してください。

年間一人　＿＿＿＿＿＿＿＿　円

質問 14　主な支出項目は何ですか。額の大きいものから順に**三つ**を選んで下の欄にその番号を記入してください。

1. 通信・事務のための費用
2. 親睦のための費用
3. 施設利用料
4. サークル活動費
5. 活動に必要な用具の整備
6. 会報誌などの発行のための費用
7. 行事開催費（自ら主催する行事）
8. 行事参加費（外部の主催する行事）
9. その他
（具体的に　　）

1 番大きいもの（　　）　2 番目（　　）　3 番目（　　）

質問 15　◇貴クラブではどのような活動を行っていますか。当てはまるものに**いくつでも**○をつけてください。
◇その中で、会員の**参加率**が**最も高い**ものと**最も低い**ものをそれぞれ**ひとつ**選び、その番号を下の欄に記入してください。

1. 親睦活動（お茶会、忘年会、新年会、誕生会他）
2. 旅行
3. 健康・スポーツ（グラウンドゴルフ、ゲートボール、体操他）
4. 趣味（ダンス、コーラス、カラオケ、俳句・短歌、絵画、書道、詩吟他）
5. 学習・教養活動（社会見学、学習会、講演会など）
6. 伝承・世代間交流（地域文化、伝統芸能、遊びの伝承、幼児・小中高生との交流他）
7. 環境・美化（公園清掃、リサイクル、園芸等）
8. 安全管理（地域防犯、交通安全など）
9. 地域行事（まつり、運動会など）
10. 地域福祉（友愛訪問、配食サービス、介護援助、施設訪問他）
11. その他（具体的に　　）

最も高いもの（　　）　最も低いもの（　　）

質問 16-1　貴クラブでは、高齢者見守り活動（友愛訪問活動、安否確認など）を行っていますか。当てはまるもの**ひとつに**○をつけてください。

1. 行っている　⇒以下の質問にもお答えください。
2. 行っていない　⇒質問 17 へおすすみください。

質問 16-2　その高齢者見守り活動は、主としてどのような方法で行っていますか。主要なもの**ひとつに**○をつけてください。

1. 戸別訪問（対面して会話）
2. 戸別訪問（インターホン越しなど）
3. 日常的な声かけ
4. 電話
5. その他
（具体的に　　）

質問 16-3　高齢者見守り活動を行っているのは、主としてどのような会員ですか。当てはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

1. クラブの会長や役員
2. 女性部などの一部会員
3. 友愛訪問担当の会員
4. 一部の会員有志
5. 会員の輪番制
6. その他（具体的に　　）

質問 16-4　高齢者見守り活動を行う頻度はどのくらいですか。当てはまるもの**ひとつに**○をつけてください。

1. 週に 1 回以上
2. 月に 2～3 回程度
3. 月に 1 回程度
4. 2, 3 ヶ月に 1 回程度
5. 年に数回程度
6. 不定期
7. その他（具体的に　　）

質問 16-5　高齢者見守り活動において、連携している組織はありますか。当てはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

1. 特にない
2. 町内会・自治会・管理組合
3. まちづくり組織（まちづくり協議会等）
4. 他の老人クラブ
5. 社会福祉協議会
6. 民生委員
7. 市・区担当課
8. ボランティアグループ
9. NPO（非営利組織）
10. 介護保険事業者
11. 公的な見守り担当者（LSA・SCS 等）
12. その他（具体的に　　）

質問 17　◇新入会員の勧誘は、どのように行われていますか。当てはまるものに**いくつでも**○をつけてください。
◇その中で、主なもの**ひとつ**の番号を下の欄に記入してください。

1. 会員が友人を勧誘している
2. 役員が複数で訪問して勧誘している
3. 加入年齢になった高齢者を勧誘している
4. 加入年齢以前から勧誘している
5. 地域行事やクラブのイベントを通じて勧誘している
6. 町内会･自治会などの集まりで勧誘している
7. 会報誌や勧誘のチラシを配布したり、広報を行ったりしている
8. その他（具体的に　　）
9. 特別なことは行っていない

主なもの（　　）

質問 18　近年、老人クラブの加入率低下が問題になっていますが、その原因は何だとお考えですか。次の中で考えに最も近いもの<u>二つ</u>に〇をつけてください。

1. 活動の実態が知られていないから
2. 魅力ある活動ができていないから
3. 地域のつながりが弱くなったから
4. 団体行動を嫌う人が増えたから
5. 老人クラブの活動が多忙だから
6. 他に多様な活動団体が存在しているから
7. 組織が閉鎖的だから
8. その他
（具体的に　　）
9. わからない

質問 19　「老人クラブ」という名前についてどのようにお考えですか。当てはまるもの<u>ひとつに</u>〇をつけてください。

1. 残したほうがよい
2. 変えたほうがよい
3. どちらでもよい

質問 20　クラブの運営上、特に問題なことは何ですか。次の中で特に重大なもの<u>二つ</u>に〇をつけてください

1. 会員の高齢化
2. 新規会員の減少
3. 活動への参加率の低下
4. 活動場所や集会所がない
5. 役員のなり手がない
6. 活動資金が足りない
7. 老人クラブ内での人間関係
8. その他
（具体的に　　）

質問 21　社会や行政からの支援で特に必要なものは何ですか。次の中で特に必要なもの<u>二つ</u>に〇をつけてください。

1. 活動の実態を広く知らせる
2. 集会所などの提供
3. スポーツ施設の提供
4. 他団体との協力の機会提供
5. 助成金の増額
6. 指導者の養成や研修
7. 活発な活動者の評価・表彰など
8. 連合会事務局等への支援体制強化
9. 加入対象者についての情報提供
10. その他
（具体的に　　）

質問 22　老人クラブ活動の活性化のために、貴クラブで取り組んでいることは何ですか。当てはまるものに<u>いくつでも</u>〇をつけてください。

1. 新規会員の勧誘活動の強化
2. 会員の活動参加への呼びかけ強化
3. 会報誌などの発行
4. 老人クラブの財政強化
5. 地域の他の組織との連携強化
6. サークル活動の推進
7. 健康・スポーツ活動の推進
8. 友愛活動の推進
9. 役員の若返り
10. 女性部会（委員会）・若手部会（委員会）の組織
11. その他
（具体的に　　）

質問 23　貴クラブのある地域の阪神･淡路大震災での被災状況を、イ～ハのそれぞれについて **5 段階で評価し**（なかった＝1 点、～ 重大だった＝5 点）、点数**ひとつに**〇をつけてください。

	なかった ←→ 重大だった				
イ．人的被害	1	2	3	4	5
ロ．住宅被害	1	2	3	4	5
ハ．ライフラインの被害	1	2	3	4	5

注：ライフライン：電気･ガス･水道・通信など

質問 24　震災を経験した会員の状況は現在どうですか。当てはまるもの**ひとつに**〇をつけてください。

1. 経験した会員がほとんどである
2. 経験した会員が多く残っている
3. 経験していない会員が多くなってきた
4. 経験していない会員がほとんどになった
5. わからない

質問 25　震災復興過程での貴クラブの地域における活動はどのような状況でしたか。イ～ニのそれぞれの時期に当てはまるものを**ひとつずつ**選び、下の欄に**番号**を記入してください。

1. 多くの会員により積極的に取り組んだ
2. 一部の会員による活動が活発になされた
3. 活動はあまり活発ではなかった
4. 活動休止状態だった
5. クラブがなくなった
6. クラブが発足した
7. まだクラブはなかった
8. わからない

イ．震災～１年（平成７年～８年）ごろ	（　　）
ロ．震災から１～５年（平成８～１２年）ごろ	（　　）
ハ．震災から５～１０年（平成１２～１７年）ごろ	（　　）
ニ．震災から１０年～現在（平成１７年～２１年）ごろ	（　　）

質問 26-1　震災によって、クラブの活動にどのような影響がありましたか。当てはまるもの**ひとつに**〇をつけてください。

1. 活動が活発になった
2. あまり影響はなかった
3. 活動が低調になった
4. クラブの存続が危うくなった
5. 震災後クラブが発足した
6. わからない

質問 26-2　上で 1～4 を選んだ方にのみお聞きします。その理由は何だとお考えですか。当てはまるものに**いくつでも**〇をつけてください。それ以外の方は質問 27 へおすすみください。

1. 主要な会員が被災した
2. 多くの会員が被災した
3. 多くの会員や住民が転出した
4. 新たな住民が転入してきた
5. 会員や住民の意識が高まった
6. 地域のつながりができた
7. その他
（具体的に　　）

質問 27　震災復興過程において、貴クラブで活発に取り組むようになった活動はありますか。当てはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

1. 震災後にクラブが発足した
2. 防災活動
3. 会員の安否確認
4. 会員以外の地域高齢者への声かけ
5. 地域行事
6. 地域福祉活動
7. 学習活動
8. ボランティア活動
9. 他組織との交流
10. 募金活動
11. 特にない
12. その他
（具体的に　　）

質問 28　震災復興過程において、老人クラブが地域で果たした役割や、現在の活動に生かされている経験などについて、ご自由にお書きください。なお、別紙を用いたり、ワープロを利用しても結構です。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

阪神・淡路大震災から今日までの老人クラブの状況について、その経験をお話くださる方を探しております。ご協力いただける方（または推薦できる適任者）について、下記にご連絡先をご記入くだされば幸いです。後日、ご連絡させていただきます。

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※なお、ご記入いただいた方すべてにご協力いただくわけではありません。あらかじめご了承ください。

被災地における高齢者活動等（老人クラブ）の
復興経験と現状

報告書

◆発行　　(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究調査本部　共生社会づくり政策研究群

〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通１丁目５番２号
TEL：078-262-5579　　FAX：078-262-5593
http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/index.html

平成２２年３月